

学生の確保の見通し等を
記載した書類

目 次

1. 学生の確保の見通し及び申請者としての取組状況

①学生の確保の見通し……………	1
ア 定員充足の見込み……………	1
イ 定員充足の根拠となる客観的なデータの概要……………	1
ウ 学生納付金の設定の考え方……………	3
②学生確保に向けた具体的な取組状況（予定含む）……………	3
1） 不特定の対象者への広報……………	3
2） 本学医学部学生、研修医、専修医への広報……………	4
3） 学校法人関連大学及び連携大学院への広報……………	4

2. 人材需要の動向等社会の要請

①人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的（概要）……………	5
②上記①が社会的、地域的な人材需要の動向等を踏まえたものであることの 客観的な根拠……………	5

1. 学生の確保の見通し及び申請者としての取組状況

①学生の確保の見通し

日本医科大学大学院（以下「本大学院」という。）に進学する学生を確保するためには、本学医学部学生（第6学年）及び研修医、専修医からの進学に対する高いニーズに応え、なおかつ、医学の領域にとらわれず、獣医学、薬学の分野及び薬剤師、看護師、検査技師等の医療従事者（以下「医療従事者」という。）を今まで以上に広く取り入れる検討が必要である。

以下は、学生確保を見通す根拠となる。

ア 定員充足の見込み

全国私立大学の医学研究科における大学院志願者数、入学者数は過去5年間（平成22年度～平成26年度）の記録において年々増えている。これは、高度な専門的知識や研究能力を大学院において研鑽しようと志す学生、医師、研究者の増加、また、医学・医療に対する社会的要請が強く起因していることが伺える（資料1：『平成22（2010）年度私立大学・短期大学等入学志願動向』及び『平成26（2014）年度私立大学・短期大学等入学志願動向』）。

平成27年4月から6月にかけて行った「日本医科大学大学院進学に関するアンケート」調査では、「是非進学をしたい」「進学を検討する」の回答として、本学研修医からは計38人、本学専修医からは計39人、本学医学部学生（第6学年）からは計29人（総合計106人）と高いニーズが得られた。

また、獣医学、薬学の分野においては、「是非進学をしたい」「進学を検討する」として、日本獣医生命科学大学獣医学部学生（第6学年）からは計7人、明治薬科大学薬学部学生（第6学年）からは計4人の回答を得た。

本大学院では、医学・医療に対する学問的、社会的要請の多種多様化に対応し、専門領域間での柔軟な連携体制を一専攻とすることで可能にし、あわせて社会人の履修も可能とする昼夜開講制の導入を継続して行うこととしている。このことにより、今後、研修医、専修医、医療従事者としての社会人の枠にとらわれず大学院の進学者が見込めること、また、医学・医療を中心として他分野からの進学者の受け入れ拡大が予測されることから、本大学院の入学定員を70人と設定した。

イ 定員充足の根拠となる客観的なデータの概要

医学研究科を置く全国私立医科大学大学院（北里大学大学院医療系研究科を除く）28校において、平成22年度から平成26年度の5年間において、医学研究科の入学定員充足率は増加傾向にある。志願者は、平成22年度の1,018人から平成26年度には1,109人となり、5年間で8.9%の増加、入学者は平成22年度の942人から平成

26年度には1,037人となり、5年間で10.1%の増加をしている（資料1：『平成22（2010）年度私立大学・短期大学等入学志願動向』及び『平成26（2014）年度私立大学・短期大学等入学志願動向』）。

また、近年の医師不足に対応するため、平成20年度より全国の医学部において入学定員が増員され、平成27年度には全国で9,134人（平成19年度比1,509人増）まで増員された（資料2：平成27年度医学部入学定員の各大学の増員計画について）。

このように全国的に医学研究科の大学院に進学する学生の増加、平成20年度より開始された医学部入学定員の増員による医学部人口の引き上げにより、今後一層の大学院教育の需要の拡大が予想される。

学生の確保の見通しの根拠として、以下の対象者に大学院進学に関するアンケート調査を行った。調査は、アンケートの趣旨、設置の理念、人材養成の目的、教育研究上の目的、履修の特色、学納金、大学院修了後の主な進路先などの必要な情報を提供して行った（資料3：日本医科大学大学院進学に関するアンケート内容）。その概要を以下に示す。

1）日本医科大学付属4病院研修医（卒後研修） 回答者61人（平成27年4月実施）

日本医科大学付属4病院専修医（後期研修） 回答者69人（平成27年4月実施）

平成28年4月以降に進学の可能性のある本学付属4病院研修医61人、同専修医69人から回答を得た。その結果、「是非進学をしたい」「進学を検討する」が研修医38人（62.3%）、専修医39人（56.5%）であり、定員の半数以上を本学研修医、本学専修医で充足する可能性が示唆された。また、どのような学習環境があれば進学しやすいと考えるかという問いに、「夜間の開講（時間帯は午後6時以降）」と回答した数が、本学研修医で30人（49.2%）、本学専修医で20人（29.0%）であり、昼夜開講制での進学に対する高い関心が示された。

どのような分野への進学を希望するかについては、臨床系分野への進学を希望する者が若干多く見られるものの、特に研究分野に突出するものはなく偏りは見られないため、研修医、専修医として臨床研究に臨むと同時に、大学院に在籍する具体性を持たせるために実質的な履修モデルを提示し、大学院進学に結び付ける必要がある。（資料4：日本医科大学大学院進学に関するアンケート集計結果（平成27年度）日本医科大学付属4病院研修医）（資料5：日本医科大学大学院進学に関するアンケート集計結果（平成27年度）日本医科大学付属4病院専修医）

2）日本医科大学医学部第6学年 回答者84人（平成27年6月実施）

平成28年4月以降に進学の可能性のある本学医学部第6学年84人から回答を得た。その結果、「是非進学をしたい」「進学を検討する」が29人（34.5%）、「進学をしない」が15人（17.9%）、「わからない」が40人（47.6%）であった。全体の3割程度から高いニーズを得られることができたが、進学に対してわからないと回答する者

が約半数に及んだため、今後の長期的な定員の確保を考慮し、早期から広報活動を行い、進学率増加を図る必要がある。(資料6：日本医科大学大学院進学に関するアンケート集計結果(平成27年度)日本医科大学医学部第6学年)

3) [法人関連大学]

日本獣医生命科学大学獣医学部第6学年 回答者89人(平成27年5月実施)
[連携大学院]

明治薬科大学薬学部第6学年 回答者156人(平成27年6月実施)

平成28年4月以降に進学の可能性のある日本獣医生命科学大学獣医学部学生(第6学年)からは89人、明治薬科大学薬学部学生(第6学年)からは156人の回答を得た。その結果、「是非進学をしたい」「進学を検討する」の回答を計11人から得た。現在、本学は、日本獣医生命科学大学、明治薬科大学、東京理科大学、京都大学との連携大学院に関する協定を締結し、互いの大学院の授業科目の履修・単位認定及び互いの大学院指導教員による研究指導などを可能とし、相互の大学院教員の交流を密にして研究活動の活性化を図っている。今後益々の活性化を見込み、他分野からの進学者の受け入れ拡大が見込まれる。(資料7：日本医科大学大学院進学に関するアンケート集計結果(平成27年度)日本獣医生命科学大学獣医学部第6学年)(資料8：日本医科大学大学院進学に関するアンケート集計結果(平成27年度)明治薬科大学薬学部第6学年)

ウ 学生納付金の設定の考え方

学生納付金については、本学・他学の出身を問わず、平等な修学機会の拡大を図るために、本大学院の運営に係る最低限のコスト(実験実習費15万円、その他施設管理費等10万円)に相当する金額として、25万円(年額)としている。この額は、私立医科大学29大学の中でも極めて低額なものとなっている。

また、本学ではティーチング・アシスタント及びリサーチ・アシスタント制度を採用し、医学部の教育補助業務に対する手当支給、研究補助者としての従事に対する手当支給を行い、就学及び育成に寄与しながら経済的な負担を軽減できる機会を設けている(資料9：平成27年度私立医科大学大学院初年度納付額・4年間納付額総額一覧)。

②学生確保に向けた具体的な取組状況(予定含む)

1) 不特定の対象者への広報

情報の積極的な配信を目的として、本学ホームページにて大学院専用ページを設け、大学院の特色や各分野の研究内容、施設の紹介などを行っている。今後は医学専攻領域の詳細説明、教育課程の特色など情報公開等のさらなる充実を目指し、大学院に進学するうえでの履修モデルを明確に示す予定である。

2) 本学医学部学生、研修医、専修医、医療従事者への広報

本学医学部学生、研修医、専修医、医療従事者に対して大学院の説明会を実施し、広報活動に努めている。今後はより積極的な進学を勧めると同時に、就労をしつつ大学院在籍が可能である履修モデルを明確に示し、各種オリエンテーションや研修会、レジナビフェア等の場でさらなる広報活動の場を増やし、進学率増加を図る予定である。

3) 関連大学及び連携大学院への広報

本学大学院に在籍中、または修了をした獣医学部や薬学部の出身者へ取材を行い、本学大学院在籍中の研究成果、修了後の進路等を詳細にレポートし、その声をリーフレットやホームページに載せることで、関連大学や連携大学院への広報を促す予定である。

2. 人材需要の動向等社会の要請

①人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的（概要）

本大学院は、「済生救民」（貧しくしてその上病気で苦しんでいる人々を救うのが、医師の最も大切な道である）を建学の精神とし、学是を「克己殉公」、すなわち「我が身を捨て、広く人々のために尽くす」こと、また「愛と研究心を有する質の高い医師と医学者の育成」を教育理念として掲げ、医学領域の幅広い視野と豊かな人間性、高い倫理観と優れた研究能力を持つ医学研究者及び高度の専門的知識と医療倫理を備えた愛と研究心を有する医師の育成を行うことを人材養成の目的とする。

その実現のために、医学に関する様々な知識・技術・倫理の習得、理論・応用の教授研究、さらに国際社会においても自立した研究活動を行えるよう、高度に専門的な業務に従事するための高い研究能力及びその基盤となる豊かな学識を養うことを目的とする。

②上記①が社会的、地域的な人材需要の動向等を踏まえたものであることの客観的な根拠

東京都の人口は、平成27年推計1,306万人となっており、今後はほぼ横ばいか微増傾向が当分の間続くが、平成32年頃に推計1,311万人をピークに減少に転じるとされている。

しかし、人口構成でみると、高齢者の割合（高齢化率）は、平成32年に25%（推計334万人）を超え、その後推計のある平成47年まで一貫して増え続けていく見通しである。特に、全国的にみても東京都の高齢者数は、平成17年の232万5千人から平成47年には389万5千人となり、増加数は全国1位である。

都内全体の救急搬送患者数については、平成10年の約48万人から増加の一途をたどり、平成17年の約64万人をピークに平成21年に約58万人に減少傾向となったが、翌年に再び増加に転じ、平成23年については、約63万人と平成17年について、過去2番目に多い搬送人員となった。

高齢者の救急搬送患者数についても、平成10年の約14万人から増加傾向にあり、平成17年から平成21年にかけては約24万人とほぼ横ばいで推移したが、平成22年に約27万人に大幅に増加し、平成23年も前年を上回る約29万人の実績となっている。全体の救急搬送患者に占める高齢者の割合は、平成23年は全体の45%を超えており、高齢化の進展により、今後一層、高齢者の救急搬送人員が増えることが予想される（資料10：救急医療対策協議会報告）。

このような東京都の長期的にわたる高齢者数の増加、高齢化の進展により今後一層増加傾向が予想される高齢者の救急搬送人員等を背景に、本大学院の教育にはより一層の高い臨床能力と研究能力を併せ持った医師・医学者の養成が求められる。

本邦における救急医療の発展に大きく寄与、牽引をしてきた全国初の「高度救命救急センター」の指定を受けた日本医科大学の救急医学を初め、救急患者における各種臓器及び

生体全体の機能の病態を理解し、その制御機構を研究し、再生医療へと繋げる広汎な分野の知識及び手法を習得するための「生体制御再生医学領域」。

高齢化が急速に進んでいる都市部に位置する本学の地理的要因を踏まえ、高齢化社会や支援要員等を取り巻く生活環境に関する多くの問題を検討し、解決策を見いだすために必要となる、総合医療・健康科学、衛生学公衆衛生学の知識・研究手法を習得するための「健康社会予防医学領域」。

さらに、呼吸器、消化器、血液等の領域のがん患者の治療に関する、分子解剖学的、解析人体病理学的な研究のアプローチを必須とする「機能形態解析医学領域」。

以上3つの医学領域を有し、従来の専攻の枠を越えた分野横断的な知識及び技能の獲得を可能とした本大学院教育は、今後変遷していく社会環境の動向に備えた医師・医学者の輩出を行い、社会に貢献することができる。

資 料 編

資 料 一 覧

資料番号	資料名	本文掲載頁
資料 1 :	日本私立大学学校振興・共済事業団 平成22(2010)年度私立大学・短期大学等入学志願動向 (平成22年7月)【抜粋】 平成26(2014)年度私立大学・短期大学等入学志願動向 (平成26年8月)【抜粋】	1、2
資料 2 :	文部科学省 平成27年度医学部入学定員の各大学の増員計画について (平成26年10月)【抜粋】	2
資料 3 :	日本医科大学大学院進学に関するアンケート内容	2
資料 4 :	日本医科大学大学院進学に関するアンケート集計結果(平成27年度)日本医科大学付属4病院研修医	2
資料 5 :	日本医科大学大学院進学に関するアンケート集計結果(平成27年度)日本医科大学付属4病院専修医	2
資料 6 :	日本医科大学大学院進学に関するアンケート集計結果(平成27年度)日本医科大学医学部第6学年	3
資料 7 :	日本医科大学大学院進学に関するアンケート集計結果(平成27年度)日本獣医生命科学大学獣医学部第6学年	3
資料 8 :	日本医科大学大学院進学に関するアンケート集計結果(平成27年度)明治薬科大学薬学部第6学年	3
資料 9 :	平成27年度私立医科大学大学院初年度納付額・4年間納付額総額一覧	3
資料10 :	東京都福祉保健局 救急医療対策協議会報告(平成25年5月)【抜粋】	5

日本私立大学学校振興・共済事業団

平成 22(2010)年度私立大学・短期大学等入学志願動向（平成 22 年 7 月）【抜粋】

平成 22(2010)年度
私立大学・短期大学等
入学志願動向

日本私立学校振興・共済事業団

私学経営情報センター

本報告書は、日本私立学校振興・共済事業団が行った平成 22 年度の「学校法人基礎調査」に基づいて志願者数、入学者数等を集計し、入学定員充足率等をまとめたものです。

本報告書の発刊は、本年度で 12 年目となりました。当事業団では時代背景や人口動態により、私立大学・短期大学の学部や学科がどのように変化してきたのか、また、規模別や地域別の入学定員充足率がどのように推移してきたのかを継続的に分析することは、大変重要であると考えております。

平成 4 年度から 18 歳人口が年々減少する一方、大学・短期大学への進学率は年々上昇しています。そのような中で、平成 22 年度は大学・短期大学への志願者数は前年度に比べ 11 万人増加しました。

さらに、大学・短期大学、それぞれの入学定員充足率は、前年度に比べ上昇し、規模別や地域別にみても志願者数や入学者数、入学定員充足率は概ね増加、上昇しました。

志願者数や入学者数、入学定員充足率の動向は、学校法人の経営を考える上で重要な要素のひとつです。本報告書を、今後の経営改革や教育研究内容の充実にお役立ていただければ幸いです。

お忙しい中、「学校法人基礎調査」にご協力いただきました学校法人の皆様へ厚くお礼を申し上げます。

平成 22(2010)年 7 月

日本私立学校振興・共済事業団

私学経営情報センター

私学情報室長 原 徹

平成 22(2010)年度

私立大学・短期大学等 入学志願動向 目次

集計の概要・利用上の留意事項	1
----------------	---

大 学

I 大学の概況	
1. 志願者等の増減状況	2
2. 志願倍率、合格率、歩留率、 入学定員充足率の状況	3
II 区分ごとの動向(大学)	
1. 規模別の動向(大学)	4
2. 地域別の動向(大学・学校別)	8
3. 地域別の動向(大学・学部別)	13
4. 学部系統別の動向(大学)	18
5. 主な学部別の志願者・入学者動向(大学)	22
III 志願者数等の推移(大学)	25
IV 平成 22 年度 大学入学志願動向の特徴	30

短期大学

V 短期大学の概況	
1. 志願者等の増減状況	32
2. 志願倍率、合格率、歩留率、 入学定員充足率の状況	33
VI 区分ごとの動向(短期大学)	
1. 規模別の動向(短期大学)	34
2. 地域別の動向(短期大学・学校別)	38
3. 地域別の動向(短期大学・学科別)	42
4. 学科系統別の動向(短期大学)	46
5. 主な学科別の志願者・入学者動向(短期大学)	50
VII 志願者数等の推移(短期大学)	53
VIII 平成 22 年度 短期大学入学志願動向の特徴	58

大学院

IX 大学院の概況	
1. 志願者等の増減状況	60
2. 研究科系統別の動向(大学院)	62
3. 主な研究科別の志願者・入学者動向(大学院)	66

集 計 の 概 要

1. 方法

平成 22 年度に実施した「学校法人基礎調査」から、私立大学・短期大学（通信教育は除く）の入学者等に関する項目のデータを集計。

（注）株式会社が設置する学校は調査対象外とした。

2. 学校数

○平成 22 年 5 月 1 日現在の調査対象学校数

大学 581 校、短期大学 370 校、大学院 451 校

○集計学校数

大学 569 校、短期大学 344 校、大学院 443 校

○集計対象外の学校数

通信教育部のみ設置する学校（大学 3 校、短期大学 1 校、大学院 3 校）

募集停止の学校（大学 8 校、短期大学 25 校、大学院 5 校）

学校法人基礎調査未提出の学校（大学 1 校）

（注）大学院のみを設置する学校は「大学院」に含めている。

利用上の留意事項

1. 調査基準日

○各年度 5 月 1 日

2. 各比率の算出方法

○志 願 倍 率（志 願 者÷入学定員）

○合 格 率（合 格 者÷受 験 者）

○歩 留 率（入 学 者÷合 格 者）

○入学定員充足率（入 学 者÷入学定員）

3. 系統区分について

学部（学群を含む）、学科及び研究科（学府を含む）の系統区分は、当事業団より発行の『今日の私学財政（大学・短期大学編）』の系統区分と同一である。

(2) 博士後期課程及び博士課程

研究科名称の表記は、集計数3以上の研究科とし、集計数2以下は「その他」とした。

区 分 研究科名	集計研究科数		入学定員 (人)		志願者 (人)		入学者数 (人)		志願倍率 (倍)			入学定員充足率 (%)		
	21年度	22年度	21年度	22年度	21年度	22年度	21年度	22年度	21年度	22年度	増減	21年度	22年度	増減
医学	28	28	1,400	1,393	975	1,018	917	942	0.70	0.73	0.03	65.50	67.62	2.12
歯学	17	17	380	380	380	372	366	344	1.00	0.98	△ 0.02	96.32	90.53	△ 5.79
歯学研究科 (博士)	13	13	286	286	275	305	264	284	0.96	1.07	0.11	92.31	99.30	6.99
その他	4	4	94	94	105	67	102	60	1.12	0.71	△ 0.41	108.51	63.83	△ 44.68
薬学	29	30	186	191	120	120	116	115	0.65	0.63	△ 0.02	62.37	60.21	△ 2.16
保健系	32	34	238	245	246	255	199	212	1.03	1.04	0.01	83.61	86.53	2.92
看護学研究科 (博士)	4	4	29	29	40	33	26	26	1.38	1.14	△ 0.24	89.66	89.66	0.00
医療()福祉(科)学研究科 (博士)	4	4	62	62	71	97	68	85	1.15	1.56	0.41	109.68	137.10	27.42
その他	24	26	147	154	135	125	105	101	0.92	0.81	△ 0.11	71.43	65.58	△ 5.85
理・工学系	114	114	1,808	1,832	754	886	700	804	0.42	0.48	0.06	38.72	43.89	5.17
工学研究科 (博士)	49	49	560	567	203	176	192	161	0.36	0.31	△ 0.05	34.29	28.40	△ 5.89
理工学研究科 (博士)	18	18	614	619	287	323	259	295	0.47	0.52	0.05	42.18	47.66	5.48
理学研究科 (博士)	11	11	107	107	38	63	37	56	0.36	0.59	0.23	34.58	52.34	17.76
情報科学研究科 (博士)	5	5	24	24	6	11	6	10	0.25	0.46	0.21	25.00	41.67	16.67
その他	31	31	503	515	220	313	206	282	0.44	0.61	0.17	40.95	54.76	13.81
農学系	17	16	181	173	126	117	111	107	0.70	0.68	△ 0.02	61.33	61.85	0.52
農学研究科 (博士)	5	5	82	84	70	50	64	45	0.85	0.60	△ 0.25	78.05	53.57	△ 24.48
獣医学研究科 (博士)	3	3	23	23	21	26	17	23	0.91	1.13	0.22	73.91	100.00	26.09
その他	9	8	76	66	35	41	30	39	0.46	0.62	0.16	39.47	59.09	19.62
人文科学系	123	123	1,315	1,315	967	928	717	667	0.74	0.71	△ 0.03	54.52	50.72	△ 3.80
文学研究科 (博士)	66	65	977	971	723	659	540	483	0.74	0.68	△ 0.06	55.27	49.74	△ 5.53
人文科学研究科 (博士)	15	14	144	140	99	99	72	63	0.69	0.71	0.02	50.00	45.00	△ 5.00
心理学研究科 (博士)	11	12	46	48	40	45	28	32	0.87	0.94	0.07	60.87	66.67	5.80
外国語学研究科 (博士)	6	6	29	29	21	34	15	27	0.72	1.17	0.45	51.72	93.10	41.38
神学研究科 (博士)	5	5	23	17	11	21	11	18	0.48	1.24	0.76	47.83	105.88	58.05
その他	20	21	96	110	73	70	51	44	0.76	0.64	△ 0.12	53.13	40.00	△ 13.13
社会科学系	244	240	1,551	1,517	1,080	1,115	659	678	0.70	0.74	0.04	42.49	44.69	2.20
経済学研究科 (博士)	56	55	354	331	153	135	111	105	0.43	0.41	△ 0.02	31.36	31.72	0.36
法学研究科 (博士)	46	46	342	342	201	228	102	127	0.59	0.67	0.08	29.82	37.13	7.31
経営学研究科 (博士)	28	28	123	128	93	91	60	55	0.76	0.71	△ 0.05	48.78	42.97	△ 5.81
商学研究科 (博士)	18	18	168	164	110	139	51	58	0.65	0.85	0.20	30.36	35.37	5.01
社会学研究科 (博士)	16	16	108	108	115	104	69	62	1.06	0.96	△ 0.10	63.89	57.41	△ 6.48
経営情報学研究科 (博士)	8	7	35	25	11	9	8	7	0.31	0.36	0.05	22.86	28.00	5.14
社会福祉学研究科 (博士)	7	7	23	23	34	43	21	28	1.48	1.87	0.39	91.30	121.74	30.44
政治学研究科 (博士)	5	5	45	55	29	48	19	31	0.64	0.87	0.23	42.22	56.36	14.14
総合政策研究科 (博士)	4	4	26	26	17	8	11	7	0.65	0.31	△ 0.34	42.31	26.92	△ 15.39
その他	56	54	327	315	317	310	207	198	0.97	0.98	0.01	63.30	62.86	△ 0.44
家政学	19	18	67	64	44	52	39	46	0.66	0.81	0.15	58.21	71.88	13.67
人間生活学研究科 (博士)	5	5	22	22	14	12	11	10	0.64	0.55	△ 0.09	50.00	45.45	△ 4.55
家政学研究科 (博士)	5	4	14	11	9	9	8	9	0.64	0.82	0.18	57.14	81.82	24.68
生活科学研究科 (博士)	3	3	8	8	3	10	3	8	0.38	1.25	0.87	37.50	100.00	62.50
その他	6	6	23	23	18	21	17	19	0.78	0.91	0.13	73.91	82.61	8.70
教育学	11	11	97	90	91	136	64	69	0.94	1.51	0.57	65.98	76.67	10.69
教育学研究科 (博士)	5	4	59	45	57	62	44	38	0.97	1.38	0.41	74.58	84.44	9.86
その他	6	7	38	45	34	74	20	31	0.89	1.64	0.75	52.63	68.89	16.26
芸術系	18	18	105	105	102	125	65	80	0.97	1.19	0.22	61.90	76.19	14.29
芸術研究科 (博士)	7	7	50	50	35	35	26	27	0.70	0.70	0.00	52.00	54.00	2.00
音楽研究科 (博士)	3	3	18	18	17	31	12	16	0.94	1.72	0.78	66.67	88.89	22.22
その他	8	8	37	37	50	59	27	37	1.35	1.59	0.24	72.97	100.00	27.03
その他	98	100	781	777	694	823	529	588	0.89	1.06	0.17	67.73	75.68	7.95
人間科学研究科 (博士)	8	8	74	74	61	52	46	38	0.82	0.70	△ 0.12	62.16	51.35	△ 10.81
国際文化研究科 (博士)	6	6	19	19	23	15	15	11	1.21	0.79	△ 0.42	78.95	57.89	△ 21.06
人間文化研究科 (博士)	3	4	13	19	13	15	11	10	1.00	0.79	△ 0.21	84.62	52.63	△ 31.99
臨床心理学研究科 (博士)	4	3	11	9	6	6	4	2	0.55	0.67	0.12	36.36	22.22	△ 14.14
総合情報学研究科 (博士)	3	3	16	16	9	9	9	8	0.56	0.56	0.00	56.25	50.00	△ 6.25
国際関係(学)研究科 (博士)	3	3	16	16	24	18	18	13	1.50	1.13	△ 0.37	112.50	81.25	△ 31.25
国際学研究科 (博士)	3	3	16	16	10	17	5	11	0.63	1.06	0.43	31.25	68.75	37.50
その他	68	70	616	608	548	691	421	495	0.89	1.14	0.25	68.34	81.41	13.07
合 計	750	749	8,109	8,082	5,579	5,947	4,482	4,652	0.69	0.74	0.05	55.27	57.56	2.29

平成 26(2014)年度
私立大学・短期大学等
入学志願動向

日本私立学校振興・共済事業団
私学経営情報センター

本報告書は、日本私立学校振興・共済事業団が行った平成 26 年度の「学校法人基礎調査」に基づいて志願者数、入学者数等を集計し、入学定員充足率等をまとめたものです。

本報告書の発刊は、本年度で 16 年目となりました。当事業団では経済状況や人口動態により、私立大学・短期大学の学部や学科がどのように変化してきたのか、また、規模別や地域別の入学定員充足率がどのように推移してきたのかを継続的に分析することは、大変重要であると考えております。

平成 26 年度は 18 歳人口が前年に比べ約 5 万人減少する中、大学・短期大学への志願者数は前年度に比べ約 7 万人増加したのに対して、入学者数は約 9 千人減少しました。平成 27 年度以降も引き続き厳しい状況が見込まれます。

志願者数や入学者数、入学定員充足率の動向は、学校法人の経営を考える上で重要な要素のひとつです。本報告書を、今後の経営改善や教育改革にお役立ていただければ幸いです。

お忙しい中、「学校法人基礎調査」にご協力いただきました学校法人の皆様には厚くお礼を申し上げます。

平成 26 (2014) 年 8 月

日本私立学校振興・共済事業団

私学経営情報センター

私学情報室長 菊池 裕明

平成 26 (2014) 年度

私立大学・短期大学等 入学志願動向 目次

集計の概要・利用上の留意事項	1
----------------	---

大 学

I 大学の概況

1. 志願者等の増減状況	2
2. 志願倍率、合格率、歩留率、 入学定員充足率の状況	3

II 区分ごとの動向 (大学)

1. 規模別の動向 (大学)	4
2. 地域別の動向 (大学・学校別)	8
3. 地域別の動向 (大学・学部別)	13
4. 学部系統別の動向 (大学)	18
5. 主な学部別の志願者・入学者動向 (大学)	22

III 入学定員充足率等の推移 (大学)	25
----------------------	----

短期大学

IV 短期大学の概況

1. 志願者等の増減状況	28
2. 志願倍率、合格率、歩留率、 入学定員充足率の状況	29

V 区分ごとの動向 (短期大学)

1. 規模別の動向 (短期大学)	30
2. 地域別の動向 (短期大学・学校別)	34
3. 地域別の動向 (短期大学・学科別)	38
4. 学科系統別の動向 (短期大学)	42
5. 主な学科別の志願者・入学者動向 (短期大学)	46

VI 入学定員充足率等の推移 (短期大学)	49
-----------------------	----

大学院

VII 大学院の概況

1. 志願者等の増減状況	52
2. 研究科系統別の動向 (大学院)	54
3. 主な研究科別の志願者・入学者動向 (大学院)	56

集 計 の 概 要

1. 方法

平成 26 年度に実施した「学校法人基礎調査」から、私立大学・短期大学（通信教育は除く）の入学者等に関する項目のデータを集計。

（注）株式会社が設置する学校は調査対象外とした。

2. 学校数

○平成 26 年 5 月 1 日現在の調査対象学校数

大学 587 校、短期大学 335 校、大学院 461 校

○集計学校数

大学 578 校、短期大学 320 校、大学院 455 校

○集計対象外の学校数

通信教育部のみ設置する学校（大学 4 校、短期大学 1 校、大学院 3 校）

募集停止の学校（大学 5 校、短期大学 14 校、大学院 3 校）

（注）大学院のみを設置する学校は「大学院」に含めている。

利用上の留意事項

1. 調査基準日

○各年度 5 月 1 日

2. 各比率の算出方法

○志 願 倍 率（志 願 者 ÷ 入学定員）

○合 格 率（合 格 者 ÷ 受 験 者）

○歩 留 率（入 学 者 ÷ 合 格 者）

○入学定員充足率（入 学 者 ÷ 入学定員）

（注）比率の表記は小数点以下第 3 位を四捨五入したものである。

3. 系統区分について

学部（学群を含む）、学科及び研究科（学府を含む）の系統区分は、当事業団より発行の『今日の私学財政（大学・短期大学編）』の系統区分と同一である。

(2) 博士課程及び博士後期課程

研究科名称の表記は、集計数3以上の研究科とし、集計数2以下は「その他」とした。

区 分	集計研究科数			入学定員 (人)			志願者 (人)			入学者数 (人)			入学定員充足率 (%)		
	25年度	26年度	増減	25年度	26年度	増減	25年度	26年度	増減	25年度	26年度	増減	25年度	26年度	増減
医学	28	28	0	1,410	1,425	15	1,129	1,109	△ 20	1,071	1,037	△ 34	75.96	72.77	△ 3.19
歯学	17	17	0	358	346	△ 12	338	346	8	317	325	8	88.55	93.93	5.38
歯学研究科 (博士)	13	13	0	274	262	△ 12	269	280	11	253	264	11	92.34	100.76	8.42
その他	4	4	0	84	84	0	69	66	△ 3	64	61	△ 3	76.19	72.62	△ 3.57
薬学	45	49	4	226	237	11	216	231	15	199	213	14	88.05	89.87	1.82
保健系	44	49	5	287	310	23	272	301	29	234	254	20	81.53	81.94	0.41
看護学研究科 (博士)	10	13	3	53	63	10	70	76	6	49	54	5	92.45	85.71	△ 6.74
医療 (・) 福祉 (学) 研究科 (博士)	4	4	0	62	62	0	70	88	18	66	84	18	106.45	135.48	29.03
栄養科学研究科 (博士)	3	3	0	7	7	0	3	4	1	3	4	1	42.86	57.14	14.28
生命科学研究科 (博士)	3	3	0	29	29	0	10	17	7	10	16	6	34.48	55.17	20.69
その他	24	26	2	136	149	13	119	116	△ 3	106	96	△ 10	77.94	64.43	△ 13.51
理・工学系	118	115	△ 3	1,823	1,774	△ 49	766	720	△ 46	704	651	△ 53	38.62	36.70	△ 1.92
工学研究科 (博士)	47	45	△ 2	513	487	△ 26	135	121	△ 14	126	108	△ 18	24.56	22.18	△ 2.38
理工学研究科 (博士)	20	22	2	639	656	17	277	302	25	258	274	16	40.38	41.77	1.39
理学研究科 (博士)	11	11	0	99	99	0	43	40	△ 3	41	38	△ 3	41.41	38.38	△ 3.03
情報科学研究科 (博士)	5	5	0	24	24	0	3	7	4	3	6	3	12.50	25.00	12.50
その他	35	32	△ 3	548	508	△ 40	308	250	△ 58	276	225	△ 51	50.36	44.29	△ 6.07
農学系	17	17	0	188	188	0	119	105	△ 14	109	95	△ 14	57.98	50.53	△ 7.45
農学研究科 (博士)	5	5	0	87	87	0	51	37	△ 14	48	34	△ 14	55.17	39.08	△ 16.09
獣医学研究科 (博士)	3	3	0	23	23	0	21	27	6	19	21	2	82.61	91.30	8.69
その他	9	9	0	78	78	0	47	41	△ 6	42	40	△ 2	53.85	51.28	△ 2.57
人文科学系	125	126	1	1,325	1,318	△ 7	839	755	△ 84	606	558	△ 48	45.74	42.34	△ 3.40
文学研究科 (博士)	63	63	0	959	953	△ 6	559	507	△ 52	395	376	△ 19	41.19	39.45	△ 1.74
人文科学研究科 (博士)	14	14	0	140	140	0	124	108	△ 16	89	76	△ 13	63.57	54.29	△ 9.28
心理学研究科 (博士)	11	11	0	44	44	0	20	26	6	17	25	8	38.64	56.82	18.18
外国語 (学) 研究科 (博士)	7	7	0	39	39	0	33	27	△ 6	26	18	△ 8	66.67	46.15	△ 20.52
神学研究科 (博士)	5	6	1	17	19	2	16	15	△ 1	11	10	△ 1	64.71	52.63	△ 12.08
仏教学研究科 (博士)	3	3	0	13	13	0	10	5	△ 5	7	5	△ 2	53.85	38.46	△ 15.39
言語文化研究科 (博士)	3	3	0	14	14	0	5	1	△ 4	5	1	△ 4	35.71	7.14	△ 28.57
心理科学研究科 (博士)	3	3	0	9	9	0	6	6	0	4	5	1	44.44	55.56	11.12
その他	16	16	0	90	87	△ 3	66	60	△ 6	52	42	△ 10	57.78	48.28	△ 9.50
社会科学系	247	244	△ 3	1,527	1,491	△ 36	818	830	12	538	540	2	35.23	36.22	0.99
経済 (学) 研究科 (博士)	56	56	0	329	327	△ 2	103	108	5	74	68	△ 6	22.49	20.80	△ 1.69
法学研究科 (博士)	45	44	△ 1	334	328	△ 6	179	179	0	118	109	△ 9	35.33	33.23	△ 2.10
経営学研究科 (博士)	30	28	△ 2	134	121	△ 13	65	59	△ 6	47	36	△ 11	35.07	29.75	△ 5.32
商学研究科 (博士)	19	18	△ 1	166	146	△ 20	111	97	△ 14	55	45	△ 10	33.13	30.82	△ 2.31
社会学研究科 (博士)	16	16	0	108	108	0	82	91	9	48	69	21	44.44	63.89	19.45
社会福祉学研究科 (博士)	8	8	0	26	26	0	24	36	12	19	35	16	73.08	134.62	61.54
経営情報学研究科 (博士)	7	7	0	25	25	0	3	4	1	3	2	△ 1	12.00	8.00	△ 4.00
政治学研究科 (博士)	5	5	0	55	55	0	27	26	△ 1	17	13	△ 4	30.91	23.64	△ 7.27
総合政策研究科 (博士)	4	4	0	26	26	0	13	8	△ 5	12	8	△ 4	46.15	30.77	△ 15.38
その他	57	58	1	324	329	5	211	222	11	145	155	10	44.75	47.11	2.36
家政学	16	15	△ 1	59	57	△ 2	28	33	5	26	28	2	44.07	49.12	5.05
人間生活学研究科 (博士)	5	5	0	22	22	0	8	7	△ 1	8	6	△ 2	36.36	27.27	△ 9.09
家政学研究科 (博士)	3	3	0	9	9	0	6	6	0	6	6	0	66.67	66.67	0.00
その他	8	7	△ 1	28	26	△ 2	14	20	6	12	16	4	42.86	61.54	18.68
教育学	13	14	1	96	99	3	132	120	△ 12	76	71	△ 5	79.17	71.72	△ 7.45
教育学研究科 (博士)	4	5	1	45	48	3	53	57	4	33	38	5	73.33	79.17	5.84
その他	9	9	0	51	51	0	79	63	△ 16	43	33	△ 10	84.31	64.71	△ 19.60
芸術系	19	20	1	109	113	4	83	95	12	62	60	△ 2	56.88	53.10	△ 3.78
芸術研究科 (博士)	7	7	0	50	50	0	35	22	△ 13	30	19	△ 11	60.00	38.00	△ 22.00
音楽研究科 (博士)	3	5	2	18	25	7	22	36	14	10	16	6	55.56	64.00	8.44
その他	9	8	△ 1	41	38	△ 3	26	37	11	22	25	3	53.66	65.79	12.13
その他	108	111	3	827	849	22	639	1,127	488	478	562	84	57.80	66.20	8.40
人間科学研究科 (博士)	8	8	0	72	72	0	40	61	21	29	46	17	40.28	63.89	23.61
国際文化研究科 (博士)	5	5	0	17	17	0	10	16	6	8	11	3	47.06	64.71	17.65
スポーツ (・) 健康科学研究科 (博士)	4	4	0	25	25	0	30	32	2	24	28	4	96.00	112.00	16.00
人間文化研究科 (博士)	4	4	0	19	19	0	5	5	0	4	5	1	21.05	26.32	5.27
国際学研究科 (博士)	3	4	1	15	17	2	11	9	△ 2	8	4	△ 4	53.33	23.53	△ 29.80
人間社会研究科 (博士)	3	3	0	23	23	0	24	21	△ 3	18	16	△ 2	78.26	69.57	△ 8.69
総合情報学研究科 (博士)	3	3	0	16	16	0	3	11	8	1	10	9	6.25	62.50	56.25
臨床心理学研究科 (博士)	3	3	0	9	9	0	9	2	△ 7	4	2	△ 2	44.44	22.22	△ 22.22
国際関係 (学) 研究科 (博士)	3	3	0	16	16	0	18	22	4	7	7	0	43.75	43.75	0.00
その他	72	74	2	615	635	20	489	948	459	375	433	58	60.98	68.19	7.21
合 計	797	805	8	8,235	8,207	△ 28	5,379	5,772	393	4,420	4,394	△ 26	53.67	53.54	△ 0.13

文部科学省

平成 27 年度医学部入学定員の各大学の増員計画について（平成 26 年 10 月）【抜粋】

平成27年度医学部入学定員の増員について

1. これまでの経緯

- 医師の養成数については、昭和57年及び平成9年の閣議決定により、入学定員を7,625人まで抑制。
- 近年の医師不足に対応するため、平成20年度より入学定員を増員し、平成26年度までに9,069人まで増員（平成19年度比1,444人増）。

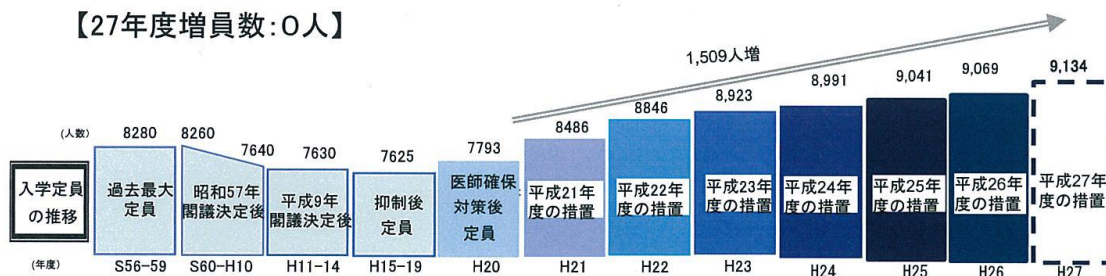
<内訳>

- ・ 平成20年度は、医師不足が深刻な10県、医師養成総数が少ない2県等で計168人の増
- ・ 平成21年度は、全都道府県で計693人の増（過去最大程度までの増員）
- ・ 平成22～26年度は、地域の医師確保等の観点から、計360人（H22）、77人（H23）、68人（H24）、50人（H25）、28人（H26）の増

2. 平成27年度の入学定員の増員の枠組み

- 平成27年度については、22～26年度と同様の枠組みで、地域の医師確保等の観点から、緊急臨時的に次の枠組みの増を認める。

1. 地域医療への従事を条件とした奨学金、選抜枠の設定（地域枠）を行う大学の入学定員の増員
【27年度増員数：17大学、64人増】
2. 複数大学の連携により研究医養成の拠点を形成する大学の入学定員の増員（研究医枠）
【27年度増員数：1大学、1人増】
3. 歯学部入学定員を減員する大学についての医学部入学定員の増員（歯学部振替枠）
【27年度増員数：0人】



増員期間

平成31年度までの間

（以降の取扱いは、その時点の医師養成数の将来見通しや定着状況を踏まえて判断）

日本医科大学大学院進学に関するアンケート内容

研修医
専修医 の皆様へ

◆皆様のご意見をお聞きいたしたく、お手数ですがアンケートのご記入をお願いいたします。

※アンケートの趣旨

・医学専攻の設置について

標記の件について、大学院における従来の6専攻（生理系・病理系・社会医学系・加齢科学系・内科系・外科系）を再編し、1専攻（医学）を新たに設置する検討をしております。（設置時期：平成28年4月、初年度納付金：授業料25万円〔入学金免除〕）

(現在の専攻名称・入学定員)		(再編後の専攻名称・入学定員)	
生理系専攻	10名	}	医学専攻 70名
病理系専攻	6名		
社会医学系専攻	3名		
加齢科学系専攻	7名		
内科系専攻	20名		
外科系専攻	24名		
入学定員	280名		
総定員	280名		280名

本大学院においては、「愛と研究心を有する質の高い医師と医学者の養成」を教育理念として、これまでの生理系、病理系、社会医学系専攻、加齢科学系、内科系、外科系を発展的に改組転換し、平成28年4月に新たに医学専攻を設置する予定です。そして、①研究能力の高い臨床医と医療関係者の育成、②地域医療への貢献、③国際交流の推進、④他大学との研究交流の推進、⑤ICT技術を取り入れたe-learningの推進を教育目標として、臨床医及び医学研究者を養成して参りました。

高い臨床能力と研究能力を併せ持った臨床医を養成するためには、進展の著しい本学を取り巻く環境により対応していくことが必要であり、専攻や分野の枠を超えて、大学院の目的と教育内容を明確にし、組織的に教育活動を計画することが重要であると考え、それらを実践することで、臨床医の養成並びに高度先進医療（具体性）を提供する機関として、社会に貢献できる人材を養成することができるものと考えております。

◆医学専攻の人材養成の目的

医学領域の幅広い視野と豊かな人間性、高い倫理観と優れた研究能力を持つ医学研究者及び高度の専門的知識と医療倫理を備えた愛と研究心を有する医師の育成を行うことを人材養成の目的とする。

◆医学専攻の教育研究上の目的

医学に関する理論及び応用を教授研究し、専攻について、医学に関する知識・技術・倫理を教授研究し、生命倫理を尊重しつつ国際社会において自立して研究活動を行い、また、高度に専門的な業務に従事するために必要な高い研究能力及びその基盤となる豊かな学識を養うことを目的とする。

◆大学院修了後の進路先

- ・大学において、教員（臨床系・基礎系）として勤務するケース
- ・市中病院、研究所等において、臨床医・研究者として勤務するケース
- ・本学において、ポスト・ドクターとして学術研究プロジェクトの分担研究に従事するケース（支給額：月額25万円、年額300万円）
- ・本学において、学位取得後特別研究生として、大学院教授の責任の下に医学に関する高度な理論及び技術の研究に従事するケース

以上

【アンケート内容】

本調査への参加は任意によるものとし、参加の有無による不利益は一切ないこと、調査は匿名としプライバシーへの配慮を行うことをお約束いたします。

本アンケートは、入学希望者数の統計の目的にのみ利用し、他の目的には使用はいたしません。

本アンケートを回答するにあたり、進路先等を拘束いたしません。

ご協力のほどよろしくお願いいたします。

回答に☒を付けてください。

問 1. あなたの職制についてお尋ねします。

☐ 初期臨床研修医 1 年目 ☐ 初期臨床研修医 2 年目 ☐ 専修医 1 年目 ☐ 専修医 2 年目

問 2. 性別は？

☐ 男性 ☐ 女性

問 3. 本大学院に設置予定の大学院【博士課程】に進学を希望されますか。1 つだけ選択してください。

☐ 是非進学をしたい ☐ 進学を検討する ☐ 進学しない ☐ わからない

(問 3 で「進学しない」、「わからない」と答えた方へ。「進学しない」、「わからない」と答えた方はここで終わりとなります。)

問 4. 将来は臨床医・研究者として働くために大学院に進学したい。

☐ 臨床医として大学院に進学したい ☐ 研究者として大学院に進学したい

問 5. 進学の時期はいつ頃を考えていますか。

☐ 初期臨床研修医 1 年目 ☐ 初期臨床研修医 2 年目 ☐ 専修医 1 年目 ☐ 専修医 2 年目
☐ その他（具体的に：_____）

問 6. どのような分野への進学を希望されますか？ あてはまるもの全て選択してください。

☐ 分子解剖学 ☐ 解剖学・神経生物学 ☐ 感覚情報科学 ☐ 生体統御科学
☐ 代謝・栄養学 ☐ 分子遺伝医学 ☐ 薬理学 ☐ 解析人体病理学
☐ 統御機構診断病理学 ☐ 微生物学・免疫学 ☐ 衛生学公衆衛生学 ☐ 法医学
☐ 医療管理学 ☐ 細胞生物学 ☐ 分子生物学 ☐ 分子細胞構造学
☐ 生体機能制御学 ☐ 遺伝子制御学 ☐ 循環器内科学 ☐ 神経内科学
☐ 腎臓内科学 ☐ アレルギー・膠原病内科学 ☐ 血液内科学 ☐ 消化器内科学
☐ 内分泌糖尿病代謝内科学 ☐ 呼吸器内科学 ☐ 精神・行動医学 ☐ 小児・思春期医学

- ☐ 臨床放射線医学 ☐ 皮膚粘膜病態学 ☐ 総合医療・健康科学 ☐ リハビリテーション学
☐ 消化器外科学 ☐ 乳腺外科学 ☐ 内分泌外科学 ☐ 呼吸器外科学
☐ 心臓血管外科学 ☐ 脳神経外科学 ☐ 整形外科学 ☐ 女性生殖発達病態学
☐ 頭頸部・感覚器科学 ☐ 男性生殖器・泌尿器科学 ☐ 眼科学 ☐ 疼痛制御麻酔科学
☐ 救急医学 ☐ 形成再建再生医学 ☐ 昼夜開講制 ☐ 未定
☐ その他（具体的に： _____ ）

問 7. どのような学習環境があれば進学しやすいと考えますか。あてはまるもの全て選択してください。

- ☐ 夜間の開講（時間帯は午後 6 時以降） ☐ 土・日・祝日の開講 ☐ サテライト教室
☐ 奨学金制度 ☐ 通信教育制度
☐ その他（具体的に： _____ ）

以上です。ご協力ありがとうございました。

医学部5年生の皆様へ
(平成27年度6年生)

◆皆様のご意見をお聞きいたしたく、お手数ですがアンケートのご記入をお願いいたします。

※アンケートの趣旨

・医学専攻の設置について

標記の件について、大学院における従来の6専攻(生理系・病理系・社会医学系・加齢科学系・内科系・外科系)を再編し、1専攻(医学)を新たに設置する検討をしております。(設置時期:平成28年4月、初年度納付金:授業料25万円[入学金免除])

(現在の専攻名称・入学定員)		(再編後の専攻名称・入学定員)	
生理系専攻	10名	}	医学専攻 70名
病理系専攻	6名		
社会医学系専攻	3名		
加齢科学系専攻	7名		
内科系専攻	20名		
外科系専攻	24名		
入学定員	280名		
総定員	280名		280名

本大学院においては、「愛と研究心を有する質の高い医師と医学者の養成」を教育理念として、これまでの生理系、病理系、社会医学系専攻、加齢科学系、内科系、外科系を発展的に改組転換し、平成28年4月に新たに医学専攻を設置する予定です。そして、①研究能力の高い臨床医と医療関係者の育成、②地域医療への貢献、③国際交流の推進、④他大学との研究交流の推進、⑤ICT技術を取り入れたe-learningの推進を教育目標として、臨床医及び医学研究者を養成して参りました。

高い臨床能力と研究能力を併せ持った臨床医を養成するためには、進展の著しい本学を取り巻く環境により対応していくことが必要であり、専攻や分野の枠を超えて、大学院の目的と教育内容を明確にし、組織的に教育活動を計画することが重要であると考え、それらを実践することで、臨床医の養成並びに高度先進医療(具体性)を提供する機関として、社会に貢献できる人材を養成することができるものと考えており

ます。

◆医学専攻の人材養成の目的

医学領域の幅広い視野と豊かな人間性、高い倫理観と優れた研究能力を持つ医学研究者及び高度の専門的知識と医療倫理を備えた愛と研究心を有する医師の育成を行うことを人材養成の目的とする。

◆医学専攻の教育研究上の目的

医学に関する理論及び応用を教授研究し、専攻について、医学に関する知識・技術・倫理を教授研究し、生命倫理を尊重しつつ国際社会において自立して研究活動を行い、また、高度に専門的な業務に従事するために必要な高い研究能力及びその基盤となる豊かな学識を養うことを目的とする。

◆大学院修了後の進路先

- ・大学において、教員（臨床系・基礎系）として勤務するケース
- ・市中病院、研究所等において、臨床医・研究者として勤務するケース
- ・本学において、ポスト・ドクターとして学術研究プロジェクトの分担研究に従事するケース（支給額：月額25万円、年額300万円）
- ・本学において、学位取得後特別研究生として、大学院教授の責任の下に医学に関する高度な理論及び技術の研究に従事するケース

以上

【アンケート内容】

本調査への参加は任意によるものとし、参加の有無による不利益は一切ないこと、調査は匿名としプライバシーへの配慮を行うことをお約束いたします。

本アンケートは、入学希望者数の統計の目的にのみ利用し、他の目的には使用はいたしません。

本アンケートを回答するにあたり、進路先等を拘束いたしません。

ご協力のほどよろしくお願いいたします。

回答に☒を付けてください。

問 1. 性別は？

☐ 男性 ☐ 女性

問 2. 本大学院に設置予定の大学院【博士課程】に進学を希望されますか。1つだけ選択してください。

☐ 是非進学をしたい ☐ 進学を検討する ☐ 進学しない ☐ わからない

(問2で「進学しない」、「わからない」と答えた方へ。「進学しない」、「わからない」と答えた方はここで終わりとなります。)

問 3. 将来は臨床医・研究者として働くために大学院に進学したい。

☐ 臨床医として大学院に進学したい ☐ 研究者として大学院に進学したい

問 4. 進学の時期はいつ頃を考えていますか。

☐ 初期臨床研修医1年目 ☐ 初期臨床研修医2年目 ☐ 専修医1年目 ☐ 専修医2年目
☐ その他(具体的に:)

問 5. どのような分野への進学を希望されますか？ あてはまるもの全て選択してください。

☐ 分子解剖学	☐ 解剖学・神経生物学	☐ 感覚情報科学	☐ 生体統御科学
☐ 代謝・栄養学	☐ 分子遺伝医学	☐ 薬理学	☐ 解析人体病理学
☐ 統御機構診断病理学	☐ 微生物学・免疫学	☐ 衛生学公衆衛生学	☐ 法医学
☐ 医療管理学	☐ 細胞生物学	☐ 分子生物学	☐ 分子細胞構造学
☐ 生体機能制御学	☐ 遺伝子制御学	☐ 循環器内科学	☐ 神経内科学
☐ 腎臓内科学	☐ アレルギー膠原病内科学	☐ 血液内科学	☐ 消化器内科学
☐ 内分泌糖尿病代謝内科学	☐ 呼吸器内科学	☐ 精神・行動医学	☐ 小児・思春期医学
☐ 臨床放射線医学	☐ 皮膚粘膜病態学	☐ 総合医療・健康科学	☐ リハビリテーション学
☐ 消化器外科学	☐ 乳腺外科学	☐ 内分泌外科学	☐ 呼吸器外科学
☐ 心臓血管外科学	☐ 脳神経外科学	☐ 整形外科学	☐ 女性生殖発達病態学

- ☐ 頭頸部・感覚器科学 ☐ 男性生殖器・泌尿器科学 ☐ 眼科学 ☐ 疼痛制御麻酔科学
☐ 救急医学 ☐ 形成再建再生医学 ☐ 昼夜開講制 ☐ 未定
☐ その他（具体的に： _____)

問 6. どのような学習環境があれば進学しやすいと考えますか。あてはまるもの全て選択してください。

- ☐ 夜間の開講（時間帯は午後 6 時以降） ☐ 土・日・祝日の開講 ☐ サテライト教室
☐ 奨学金制度 ☐ 通信教育制度
☐ その他（具体的に： _____)

以上です。ご協力ありがとうございました。

日本獣医生命科学大学獣医学部 6 年生の皆様へ

◆皆様のご意見をお聞きいたしたく、お手数ですがアンケートのご記入をお願いいたします。

※アンケートの趣旨

・医学専攻の設置について

大学院における従来の 6 専攻（生理系・病理系・社会医学系・加齢科学系・内科系・外科系）を再編し、1 専攻（医学）を新たに設置する検討をしております。

（設置時期：平成 28 年 4 月、初年度納付金：授業料 25 万円 [入学金免除]）

（現在の専攻名称・入学定員）		（再編後の専攻・領域名称・入学定員）	
生理系専攻	10名	医学専攻	70名
病理系専攻	6名	※領域	機能形態解析医学 生体制御再生医学 健康社会予防医学
社会医学系専攻	3名		
加齢科学系専攻	7名		
内科系専攻	20名		
外科系専攻	24名		
入学定員	70名	入学定員	70名
総定員	280名	総定員	280名

大学院においては、「愛と研究心を有する質の高い医師と医学者の養成」を教育理念として、これまでの生理系、病理系、社会医学系専攻、加齢科学系、内科系、外科系を発展的に改組転換し、平成 28 年 4 月に新たに医学専攻を設置する予定です。

高い臨床能力と研究能力を併せ持った臨床医を養成するためには、専攻や分野の枠を超えて、教育活動を計画することが重要であると考え、それらを実践することで、臨床医の養成並びに高度先進医療を提供する機関として、社会に貢献できる人材を養成することができるものと考えております。

◆医学専攻の人材養成の目的

医学領域の幅広い視野と豊かな人間性、高い倫理観と優れた研究能力を持つ医学研究者及び高度の専門的知識と医療倫理を備えた愛と研究心を有する医師の育成を行うことを人材養成の目的とする。

◆医学専攻の教育研究上の目的

医学に関する理論及び応用を教授研究し、専攻について、医学に関する知識・技術・倫理を教授研究し、生命倫理を尊重しつつ国際社会において自立して研究活動を行い、また、高度に専門的な業務に従事するために必要な高い研究能力及びその基盤となる豊かな学識を養うことを目的とする。

◆履修の特色

博士論文の作成あたり、3 領域の中から主専攻となる領域・分野を決定する。主専攻の他にもう 1 つ副専攻として、別の分野を履修することができる。副専攻の領域については、主専攻と同じ領域でも構わない。

◆大学院修了後の進路先

- ・大学において、教員（臨床系・基礎系）として勤務するケース
- ・市中病院、研究所等において、臨床医・研究者として勤務するケース
- ・本学において、ポスト・ドクターとして学術研究プロジェクトの分担研究に従事するケース（支給額：月額 2 5 万円、年額 3 0 0 万円）
- ・本学において、学位取得後特別研究生として、大学院教授の責任の下に医学に関する高度な理論及び技術の研究に従事するケース

以上

【以上の内容は、設置準備を進めていく中で変更する可能性があります。】

※本アンケートの提出先

本アンケートにご回答後、日本獣医生命科学大学大学院課へご提出ください。

※本アンケートに関するお問い合わせ先

日本医科大学 学事部大学院課

金子（03-3822-2131 内線 5 3 0 9）

[アンケート内容]

本調査への参加は任意によるものとし、参加の有無による不利益は一切ないこと、調査は匿名としプライバシーへの配慮を行うことをお約束いたします。

本アンケートは、入学希望者数の統計の目的にのみ利用し、他の目的には使用はいたしません。

本アンケートを回答するにあたり、進路先等を拘束いたしません。

ご協力のほどよろしくお願いいたします。

回答に☒を付けてください。

問 1. 性別は？

☐ 男性 ☐ 女性

問 2. 本大学院に設置予定の大学院【博士課程】に進学を希望されますか。1つだけ選択してください。

☐ 是非進学をしたい ☐ 進学を検討する ☐ 進学しない ☐ わからない

(問2で「進学しない」、「わからない」と答えた方へ。「進学しない」、「わからない」と答えた方はここで終わりとなります。)

問 3. 進学の時期はいつ頃を考えていますか。

☐ 初期臨床研修医1年目 ☐ 初期臨床研修医2年目 ☐ 専修医1年目 ☐ 専修医2年目
☐ その他(具体的に:)

問 4. どのような分野への進学を希望されますか？ あてはまるもの全て選択してください。

☐ 分子解剖学 ☐ 解剖学・神経生物学 ☐ 感覚情報科学 ☐ 生体統御科学
☐ 代謝・栄養学 ☐ 分子遺伝医学 ☐ 薬理学 ☐ 解析人体病理学
☐ 統御機構診断病理学 ☐ 微生物学・免疫学 ☐ 衛生学公衆衛生学 ☐ 法医学
☐ 医療管理学 ☐ 細胞生物学 ☐ 分子生物学 ☐ 分子細胞構造学
☐ 生体機能制御学 ☐ 遺伝子制御学 ☐ 循環器内科学 ☐ 神経内科学
☐ 腎臓内科学 ☐ アレルギー膠原病内科学 ☐ 血液内科学 ☐ 消化器内科学
☐ 内分泌糖尿病代謝内科学 ☐ 呼吸器内科学 ☐ 精神・行動医学 ☐ 小児・思春期医学
☐ 臨床放射線医学 ☐ 皮膚粘膜病態学 ☐ 総合医療・健康科学 ☐ リハビリテーション学
☐ 消化器外科学 ☐ 乳腺外科学 ☐ 内分泌外科学 ☐ 呼吸器外科学
☐ 心臓血管外科学 ☐ 脳神経外科学 ☐ 整形外科学 ☐ 女性生殖発達病態学
☐ 頭頸部・感覚器科学 ☐ 男性生殖・泌尿器科学 ☐ 眼科学 ☐ 疼痛制御麻酔科学
☐ 救急医学 ☐ 形成再建再生医学 ☐ 昼夜開講制 ☐ 未定
☐ その他(具体的に:)

問 5. どのような学習環境があれば進学しやすいと考えますか。あてはまるもの全て選択してください。

- ☐ 夜間の開講（時間帯は午後 6 時以降） ☐ 土・日・祝日の開講 ☐ サテライト教室
☐ 奨学金制度 ☐ 通信教育制度
☐ その他（具体的に： _____)

以上です。ご協力ありがとうございました。

明治薬科大学薬学部6年生の皆様へ

◆皆様のご意見をお聞きいたしたく、お手数ですがアンケートのご記入をお願いいたします。

※アンケートの趣旨

・医学専攻の設置について

大学院における従来の6専攻（生理系・病理系・社会医学系・加齢科学系・内科系・外科系）を再編し、1専攻（医学）を新たに設置する検討をしております。

（設置時期：平成28年4月、初年度納付金：授業料25万円〔入学金免除〕）

（現在の専攻名称・入学定員）		（再編後の専攻・領域名称・入学定員）	
生理系専攻	10名	医学専攻	70名
病理系専攻	6名	※領域 機能形態解析医学 生体制御再生医学 健康社会予防医学	
社会医学系専攻	3名		
加齢科学系専攻	7名		
内科系専攻	20名		
外科系専攻	24名		
入学定員	70名	入学定員	70名
総定員	280名	総定員	280名

大学院においては、「愛と研究心を有する質の高い医師と医学者の養成」を教育理念として、これまでの生理系、病理系、社会医学系専攻、加齢科学系、内科系、外科系を発展的に改組転換し、平成28年4月に新たに医学専攻を設置する予定です。

高い臨床能力と研究能力を併せ持った臨床医を養成するためには、専攻や分野の枠を超えて、教育活動を計画することが重要であると考え、それらを実践することで、臨床医の養成並びに高度先進医療を提供する機関として、社会に貢献できる人材を養成することができるものと考えております。

◆医学専攻の人材養成の目的

医学領域の幅広い視野と豊かな人間性、高い倫理観と優れた研究能力を持つ医学研究者及び高度の専門的知識と医療倫理を備えた愛と研究心を有する医師の育成を行うことを人材養成の目的とする。

◆医学専攻の教育研究上の目的

医学に関する理論及び応用を教授研究し、専攻について、医学に関する知識・技術・倫理を教授研究し、生命倫理を尊重しつつ国際社会において自立して研究活動を行い、また、高度に専門的な業務に従事するために必要な高い研究能力及びその基盤となる豊かな学識を養うことを目的とする。

◆履修の特色

博士論文の作成あたり、3 領域の中から主専攻となる領域・分野を決定する。主専攻の他にもう 1 つ副専攻として、別の分野を履修することができる。副専攻の領域については、主専攻と同じ領域でも構わない。

◆大学院修了後の進路先

- ・大学において、教員（臨床系・基礎系）として勤務するケース
- ・市中病院、研究所等において、臨床医・研究者として勤務するケース
- ・本学において、ポスト・ドクターとして学術研究プロジェクトの分担研究に従事するケース（支給額：月額 2 5 万円、年額 3 0 0 万円）
- ・本学において、学位取得後特別研究生として、大学院教授の責任の下に医学に関する高度な理論及び技術の研究に従事するケース

以上

【以上の内容は、設置準備を進めていく中で変更する可能性があります。】

※本アンケートの提出先

本アンケートにご回答後、明治薬科大学教務課へご提出ください。

※本アンケートに関するお問い合わせ先

日本医科大学 学事部大学院課

金子（03-3822-2131 内線 5 3 0 9）

〔アンケート内容〕

本調査への参加は任意によるものとし、参加の有無による不利益は一切ないこと、調査は匿名としプライバシーへの配慮を行うことをお約束いたします。

本アンケートは、入学希望者数の統計の目的にのみ利用し、他の目的には使用はいたしません。

本アンケートを回答するにあたり、進路先等を拘束いたしません。

ご協力のほどよろしくお願いいたします。

回答に☒を付けてください。

問 1. 性別は？

☐ 男性 ☐ 女性

問 2. 本大学院に設置予定の大学院【博士課程】に進学を希望されますか。1つだけ選択してください。

- ☐ 是非進学をしたい
- ☐ 進学を検討する
- ☐ 進学しない
- ☐ わからない

(問2で「進学しない」、「わからない」と答えた方へ。「進学しない」、「わからない」と答えた方はここで終わりとなります。)

問 3. 進学の時期はいつ頃を考えていますか。

☐ その他(具体的に：)

問 4. どのような分野への進学を希望されますか？ あてはまるもの全て選択してください。

- | | | | |
|--------------------------------------|--------------------------------------|------------------------------------|--------------------------------------|
| ☐ 分子解剖学 | ☐ 解剖学・神経生物学 | ☐ 感覚情報科学 | ☐ 生体統御科学 |
| ☐ 代謝・栄養学 | ☐ 分子遺伝医学 | ☐ 薬理学 | ☐ 解析人体病理学 |
| ☐ 統御機構診断病理学 | ☐ 微生物学・免疫学 | ☐ 衛生学公衆衛生学 | ☐ 法医学 |
| ☐ 医療管理学 | ☐ 細胞生物学 | ☐ 分子生物学 | ☐ 分子細胞構造学 |
| ☐ 生体機能制御学 | ☐ 遺伝子制御学 | ☐ 循環器内科学 | ☐ 神経内科学 |
| ☐ 腎臓内科学 | ☐ アレルギー膠原病内科学 | ☐ 血液内科学 | ☐ 消化器内科学 |
| ☐ 内分泌糖尿病代謝内科学 | ☐ 呼吸器内科学 | ☐ 精神・行動医学 | ☐ 小児・思春期医学 |
| ☐ 臨床放射線医学 | ☐ 皮膚粘膜病態学 | ☐ 総合医療・健康科学 | ☐ リハビリテーション科学 |

- | | | | |
|---|--------------------------------------|---------------------------------|------------------------------------|
| ☐ 消化器外科学 | ☐ 乳腺外科学 | ☐ 内分泌外科学 | ☐ 呼吸器外科学 |
| ☐ 心臓血管外科学 | ☐ 脳神経外科学 | ☐ 整形外科 | ☐ 女性生殖発達病態学 |
| ☐ 頭頸部・感覚器科学 | ☐ 男性生殖器・泌尿器科学 | ☐ 眼科学 | ☐ 疼痛制御麻酔科学 |
| ☐ 救急医学 | ☐ 形成再建再生医学 | ☐ 昼夜開講制 | ☐ 未定 |
| ☐ その他（具体的に： _____） | | | |

問 6. どのような学習環境があれば進学しやすいと考えますか。あてはまるもの全て選択してください。

- ☐ 夜間の開講（時間帯は午後 6 時以降）
- ☐ 土・日・祝日の開講
- ☐ サテライト教室
- ☐ 奨学金制度
- ☐ 通信教育制度
- ☐ 長期履修制度※
- ☐ その他（具体的に： _____）

※長期履修制度

長期履修学生制度とは、学生が、職業を有している等の事情により標準修業年限（博士課程 4 年）を超えて一定の期間にわたり計画的に教育課程を履修し修了することを希望する場合に、その計画的な履修を認める制度です。

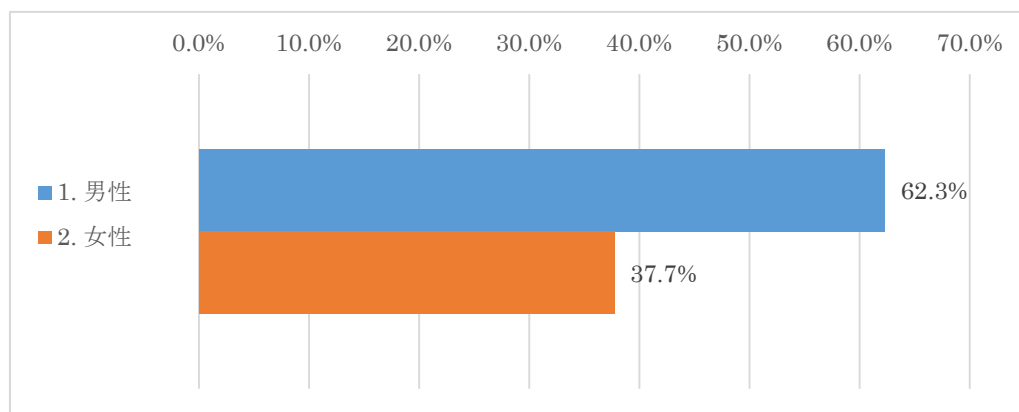
以上です。ご協力ありがとうございました。

日本医科大学大学院進学に関するアンケート 集計結果（平成 27 年度）

アンケート対象：研修医（日本医科大学付属病院、日本医科大学武蔵小杉病院、日本医科大学多摩永山病院、日本医科大学千葉北総病院）【回答者 61 名】

1. 性別は？

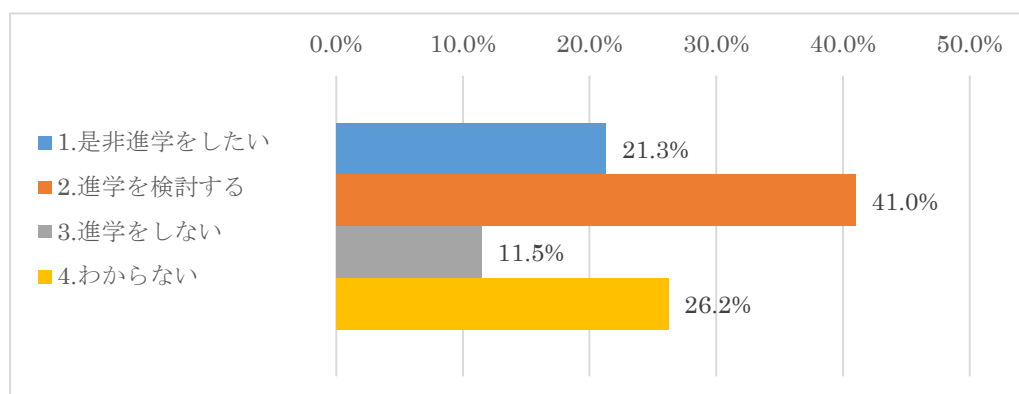
	人数	割合
1. 男性	38	62.3%
2. 女性	23	37.7%
合 計	61	100.0%



2. 本大学院に設置予定の大学院【博士課程】に進学を希望されますか。

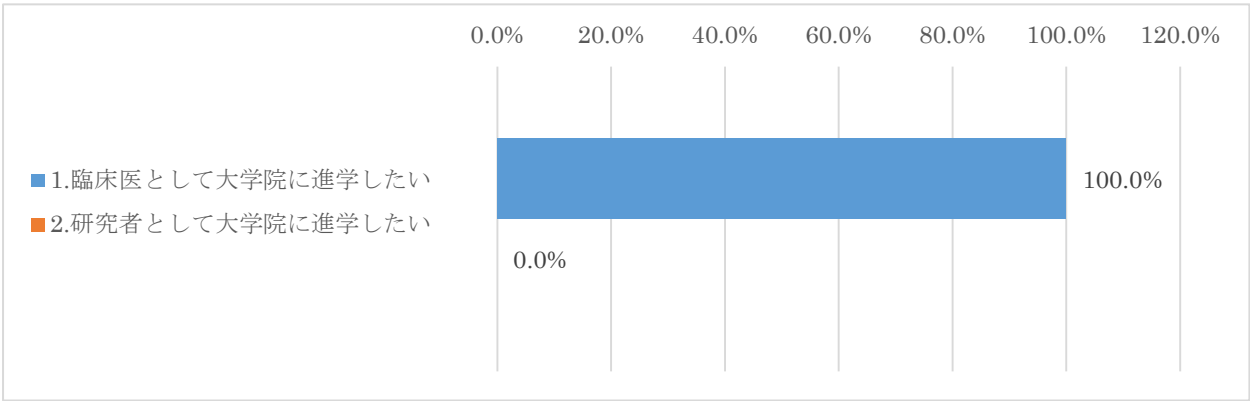
1 つだけ選択をしてください。

	人数	割合
1.是非進学をしたい	13	21.3%
2.進学を検討する	25	41.0%
3.進学をしない	7	11.5%
4.わからない	16	26.2%
合 計	61	100.0%



3. 将来は臨床医・研究者として働くために大学院に進学したい。(回答者数 37 名)

	人数	割合
1.臨床医として大学院に進学したい	37	100.0%
2.研究者として大学院に進学したい	0	0.0%
合 計	37	100.0%



4. 進学のと期はいつ頃を考ていますか。

- ・研修 2 年目（同回答 3 名）
- ・まだ分からない
- ・後期研修が始まってから時期をみて
- ・研修医 2 年目又は専門医資格取得後
- ・できるだけ早く最短で
- ・後期研修後数年以内
- ・専門医を取る前後
- ・後期研修以降に
- ・2 ～ 3 年目から進路をきめて
- ・研修医終了後（同回答 3 名）
- ・2 ～ 3 年後
- ・3 年目以降
- ・未定
- ・医師 10 年目までには
- ・研修終了後
- ・後期研修終了後（同回答 2 名）
- ・専門医取得後

5. どのような分野への進学を希望されますか？

あてはまるものを全て選択してください。

	人数
1.分子解剖学	1
2.解剖学・神経生物学	1
3.感覚情報科学	2
4.生体統御科学	2
5.代謝・栄養学	2
6.分子遺伝医学	3
7.薬理学	3
8.解析人体病理学	1
9.統御機構診断病理学	1
10.微生物学・免疫学	4
11.衛生学公衆衛生学	4
12.法医学	1
13.医療管理学	0
14.細胞生物学	2
15.分子生物学	1
16.分子細胞構造学	1
17.生体機能制御学	2
18.遺伝子制御学	3
19.循環器内科学	1
20.神経内科学	1
21.腎臓内科学	0
22.アレルギー膠原病内科学	3
23.血液内科学	3
24.消化器内科学	5
25.内分泌糖尿病代謝内科学	2
26.呼吸器内科学	0
27.精神・行動医学	0
28.小児・思春期医学	3
29.臨床放射線医学	1
30.皮膚粘膜病態学	0
31.総合医療・健康科学	1
32.リハビリテーション学	0
33.消化器外科学	4
34.乳腺外科学	0

35.内分泌外科学	1
36.呼吸器外科学	0
37.心臓血管外科学	1
38.脳神経外科学	0
39.整形外科	4
40.女性生殖発達病態学	4
41.頭頸部・感覚器科学	1
42.男性生殖器・泌尿器科学	1
43.眼科学	1
44.疼痛制御麻酔科学	2
45.救急医学	1
46.形成再建再生医学	2
47.昼夜開講制	3
48.未定	5
49.その他(具体的に:)	1
合 計	85

6. どのような学習環境があれば進学しやすいと考えますか。
あてはまるものを全て選択してください。

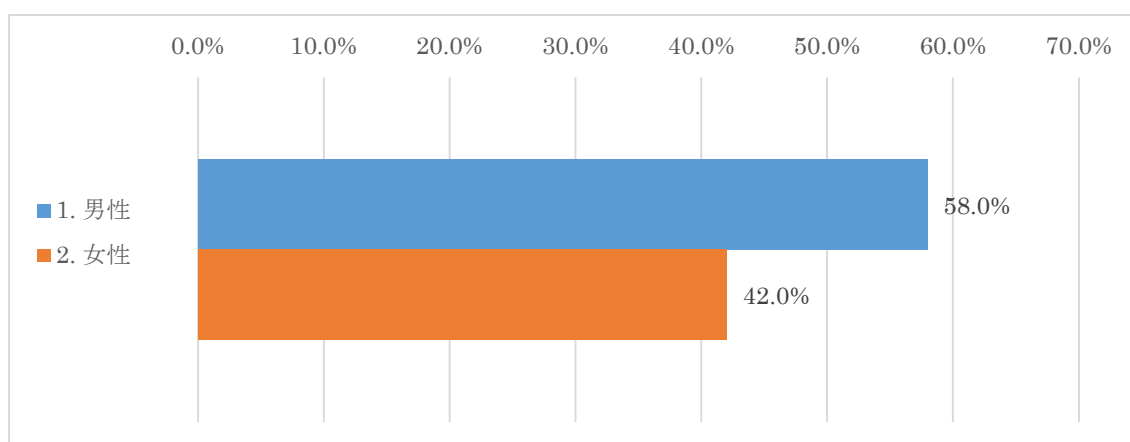
	人数
1. 夜間の開講(時間帯は午後 6 時以降)	30
2. 土・日・祝日の開講	16
3. サテライト教室	21
4. 奨学金制度	10
5. 通信教育制度	16
6.その他(具体的に:)	0
合 計	93

日本医科大学大学院進学に関するアンケート 集計結果（平成 27 年度）

アンケート対象：専修医（日本医科大学付属病院、日本医科大学武蔵小杉病院、
日本医科大学多摩永山病院、日本医科大学千葉北総病院）【回答者：69 名】

1. 性別は？

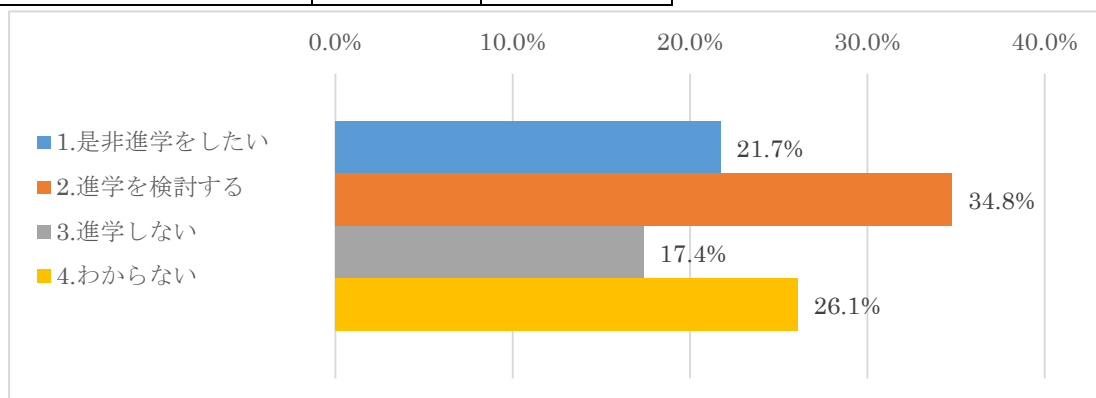
	人数	割合
1. 男性	40	58.0%
2. 女性	29	42.0%
合 計	69	100.0%



2. 本大学院に設置予定の大学院【博士課程】に進学を希望されますか。

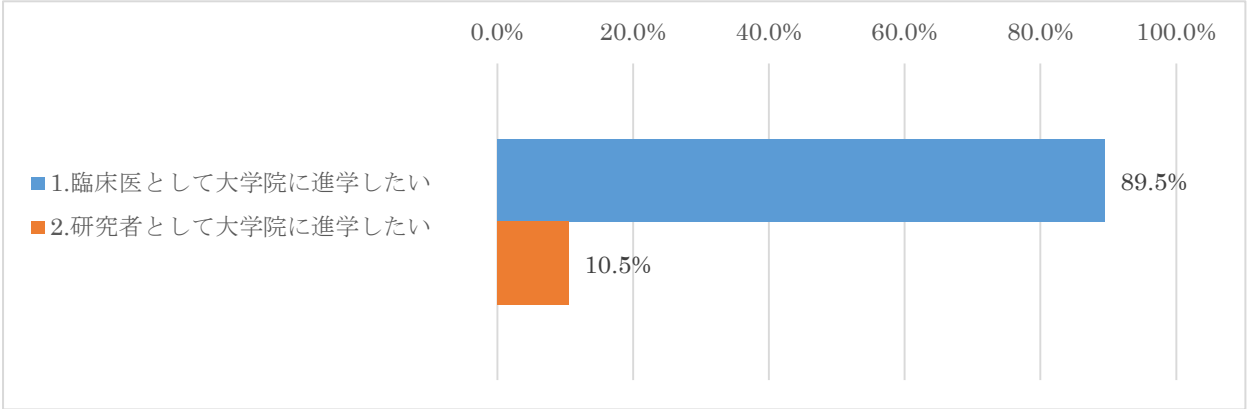
1 つだけ選択をしてください。

	人数	割合
1.是非進学をしたい	15	21.7%
2.進学を検討する	24	34.8%
3.進学しない	12	17.4%
4.わからない	18	26.1%
合 計	69	100.0%



3. 将来は臨床医・研究者として働くために大学院に進学したい。(回答者数38名)

	人数	割合
1.臨床医として大学院に進学したい	34	89.5%
2.研究者として大学院に進学したい	4	10.5%
合 計	38	100.0%



4. 進学の時期はいつ頃を考えていますか。

- ・ 未定（同回答 6 名）
- ・ 専修医終了後（同回答 7 名）
- ・ 近い将来
- ・ 4 年目
- ・ 入局 3 年目以降
- ・ 卒後 8 ～ 1 0 年目くらい
- ・ 5 年目くらい
- ・ 卒後 5 年目くらい
- ・ 1 0 年後等
- ・ 専門医をとってから？ 4 年目以降
- ・ 入局 3 年目
- ・ 専門医取得後（同回答 2 名）
- ・ 専修医 4 ～ 5 年目あたりで考えています。
- ・ 4 ～ 6 年目

5. どのような分野への進学を希望されますか？

あてはまるものを全て選択してください。

	人数
1.分子解剖学	2
2.解剖学・神経生物学	1
3.感覚情報科学	1
4.生体統御科学	1
5.代謝・栄養学	1
6.分子遺伝医学	0
7.薬理学	1
8.解析人体病理学	2
9.統御機構診断病理学	3
10.微生物学・免疫学	0
11.衛生学公衆衛生学	0
12.法医学	0
13.医療管理学	0
14.細胞生物学	0
15.分子生物学	1
16.分子細胞構造学	0
17.生体機能制御学	0
18.遺伝子制御学	0
19.循環器内科学	2
20.神経内科学	3
21.腎臓内科学	2
22.アレルギー膠原病内科学	2
23.血液内科学	2
24.消化器内科学	4
25.内分泌糖尿病代謝内科学	1
26.呼吸器内科学	3
27.精神・行動医学	1
28.小児・思春期医学	1
29.臨床放射線医学	3
30.皮膚粘膜病態学	0
31.総合医療・健康科学	0
32.リハビリテーション学	0
33.消化器外科学	0
34.乳腺外科学	0

35.内分泌外科学	1
36.呼吸器外科学	1
37.心臓血管外科学	0
38.脳神経外科学	1
39.整形外科	0
40.女性生殖発達病態学	1
41.頭頸部・感覚器科学	0
42.男性生殖器・泌尿器科学	3
43.眼科学	1
44.疼痛制御麻酔科学	0
45.救急医学	2
46.形成再建再生医学	3
47.昼夜開講制	1
48.未定	2
49.その他(具体的に:)	0
合 計	53

6. どのような学習環境があれば進学しやすいと考えますか。

あてはまるものを全て選択してください。

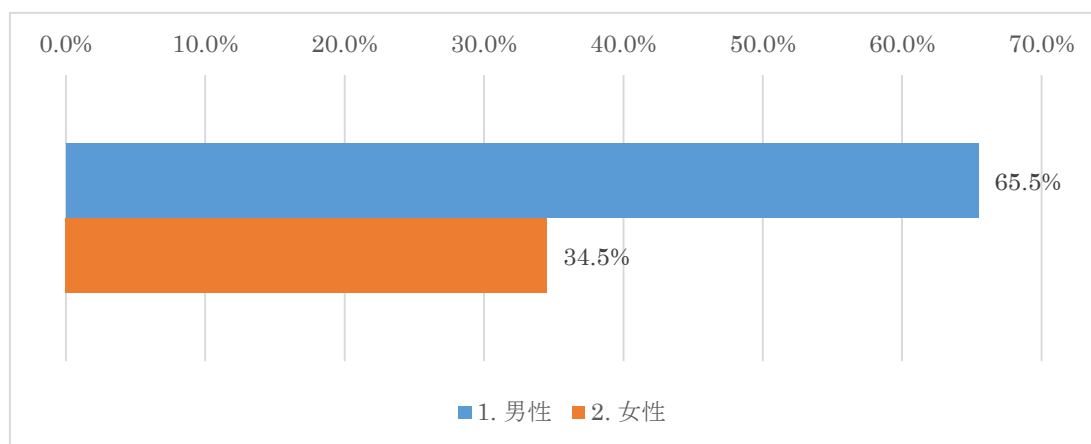
	人数
1. 夜間の開講(時間帯は午後 6 時以降)	20
2. 土・日・祝日の開講	12
3. サテライト教室	21
4. 奨学金制度	15
5. 通信教育制度	13
6.その他(具体的に:)	0
合 計	81

日本医科大学大学院進学に関するアンケート 集計結果（平成 27 年度）

アンケート対象：日本医科大学医学部第 6 学年（回答者 84 名）

1. 性別は？

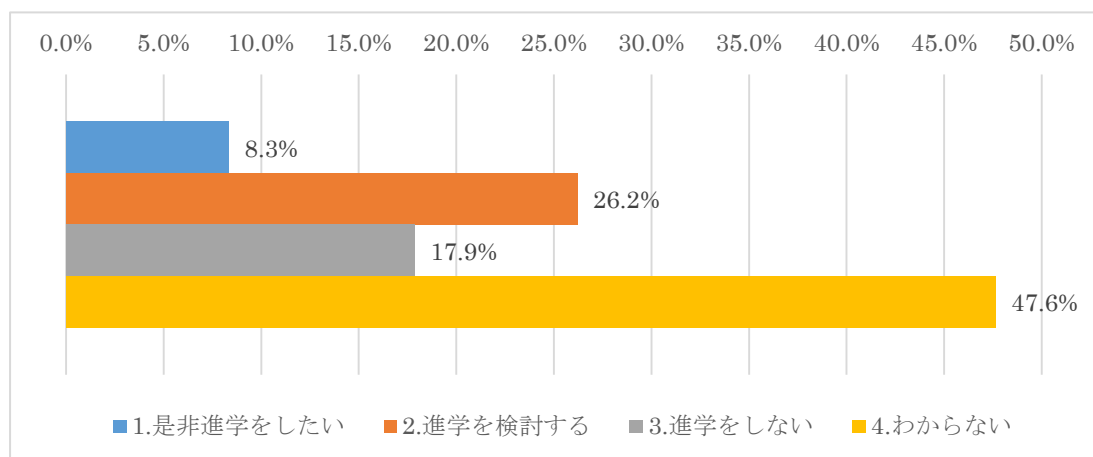
	人数	割合
1. 男性	55	65.5%
2. 女性	29	34.5%
合 計	84	100.0%



2. 本大学院に設置予定の大学院【博士課程】に進学を希望されますか。

1 つだけ選択をしてください。

	人数	割合
1.是非進学をしたい	7	8.3%
2.進学を検討する	22	26.2%
3.進学をしない	15	17.9%
4.わからない	40	47.6%
合 計	84	100.0%



3. 進学の時期はいつ頃を考えていますか。

- ・ 不明
- ・ 卒業3年目以降（同回答2名）
- ・ 専修医
- ・ 入局してから
- ・ 後期研修終了後
- ・ 2年目
- ・ 2年目から3年目
- ・ 2年目 or 3年目
- ・ 3年目以降（同回答4名）
- ・ 研究したいことが見つかったから
- ・ 専修医になってから
- ・ 結婚して子供を生む頃など
- ・ 出来るだけ早期に
- ・ 後期研修後

4. どのような分野への進学を希望されますか？

あてはまるものを全て選択してください。

	人数
1.分子解剖学	0
2.解剖学・神経生物学	1
3.感覚情報科学	1
4.生体統御科学	1
5.代謝・栄養学	1
6.分子遺伝医学	1
7.薬理学	1
8.解析人体病理学	1
9.統御機構診断病理学	1
10.微生物学・免疫学	0
11.衛生学公衆衛生学	3
12.法医学	0
13.医療管理学	0
14.細胞生物学	0
15.分子生物学	0

16.分子細胞構造学	1
17.生体機能制御学	0
18.遺伝子制御学	1
19.循環器内科学	8
20.神経内科学	6
21.腎臓内科学	2
22.アレルギー膠原病内科学	5
23.血液内科学	3
24.消化器内科学	2
25.内分泌糖尿病代謝内科学	4
26.呼吸器内科学	3
27.精神・行動医学	2
28.小児・思春期医学	3
29.臨床放射線医学	1
30.皮膚粘膜病態学	0
31.総合医療・健康科学	3
32.リハビリテーション学	2
33.消化器外科学	5
34.乳腺外科学	4
35.内分泌外科学	2
36.呼吸器外科学	2
37.心臓血管外科学	3
38.脳神経外科学	3
39.整形外科学	2
40.女性生殖発達病態学	3
41.頭頸部・感覚器科学	2
42.男性生殖器・泌尿器科学	0
43.眼科学	2
44.疼痛制御麻酔科学	0
45.救急医学	2
46.形成再建再生医学	4
47.昼夜開講制	0
48.未定	5
49.その他(具体的に:)	0
合 計	96

5. どのような学習環境があれば進学しやすいと考えますか。

あてはまるものを全て選択してください。

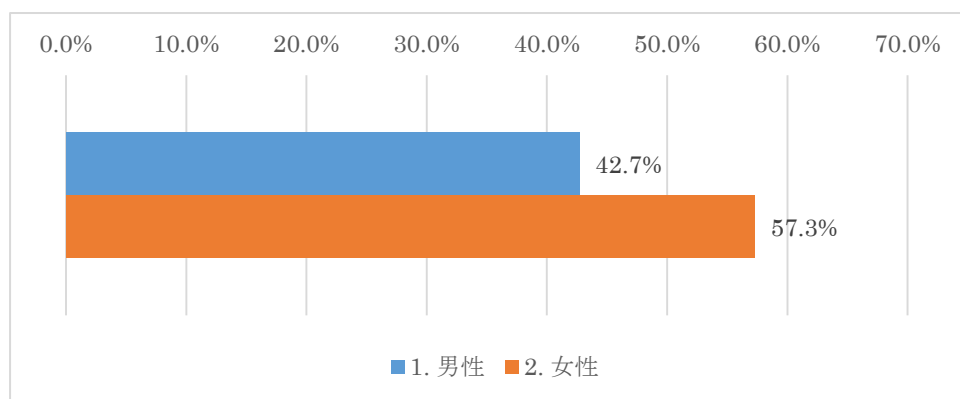
	人数
1. 夜間の開講 (時間帯は午後 6 時以降)	23
2. 土・日・祝日の開講	14
3. サテライト教室	12
4. 奨学金制度	14
5. 通信教育制度	11
6. 長期履修制度	6
7. その他(具体的に:)	2
合 計	82

日本医科大学大学院進学に関するアンケート 集計結果（平成 27 年度）

アンケート対象：日本獣医生命科学大学獣医学部第 6 学年（回答者 89 名）

1. 性別は？

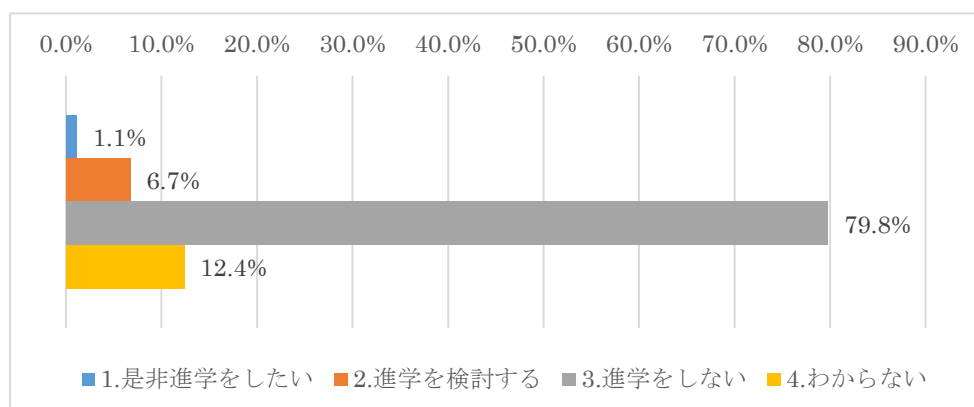
	人数	割合
1. 男性	38	42.7%
2. 女性	51	57.3%
合 計	89	100.0%



2. 本大学院に設置予定の大学院【博士課程】に進学を希望されますか。

1 つだけ選択をしてください。

	人数	割合
1.是非進学をしたい	1	1.1%
2.進学を検討する	6	6.7%
3.進学をしない	71	79.8%
4.わからない	11	12.4%
合 計	89	100.0%



3. 進学の時期はいつ頃を考えていますか。

- ・ 不明、3～5年後
- ・ 大学卒業後すぐにでも
- ・ 就職後
- ・ 数年勤務後
- ・ しばらく働いてから

4. どのような分野への進学を希望されますか？

あてはまるものを全て選択してください。

	人数
1.分子解剖学	0
2.解剖学・神経生物学	0
3.感覚情報科学	0
4.生体統御科学	0
5.代謝・栄養学	0
6.分子遺伝医学	1
7.薬理学	0
8.解析人体病理学	0
9.統御機構診断病理学	1
10.微生物学・免疫学	2
11.衛生学公衆衛生学	0
12.法医学	2
13.医療管理学	0
14.細胞生物学	1
15.分子生物学	0
16.分子細胞構造学	0
17.生体機能制御学	0
18.遺伝子制御学	2
19.循環器内科学	2
20.神経内科学	0
21.腎臓内科学	0
22.アレルギー膠原病内科学	0
23.血液内科学	1
24.消化器内科学	1
25.内分泌糖尿病代謝内科学	1

26.呼吸器内科学	1
27.精神・行動医学	1
28.小児・思春期医学	0
29.臨床放射線医学	0
30.皮膚粘膜病態学	0
31.総合医療・健康科学	0
32.リハビリテーション学	0
33.消化器外科学	0
34.乳腺外科学	0
35.内分泌外科学	0
36.呼吸器外科学	0
37.心臓血管外科学	2
38.脳神経外科学	0
39.整形外科学	0
40.女性生殖発達病態学	0
41.頭頸部・感覚器科学	0
42.男性生殖器・泌尿器科学	0
43.眼科学	0
44.疼痛制御麻酔科学	0
45.救急医学	2
46.形成再建再生医学	0
47.昼夜開講制	1
48.未定	0
49.その他(具体的に:)	0
合 計	21

5. どのような学習環境があれば進学しやすいと考えますか。

あてはまるものを全て選択してください。

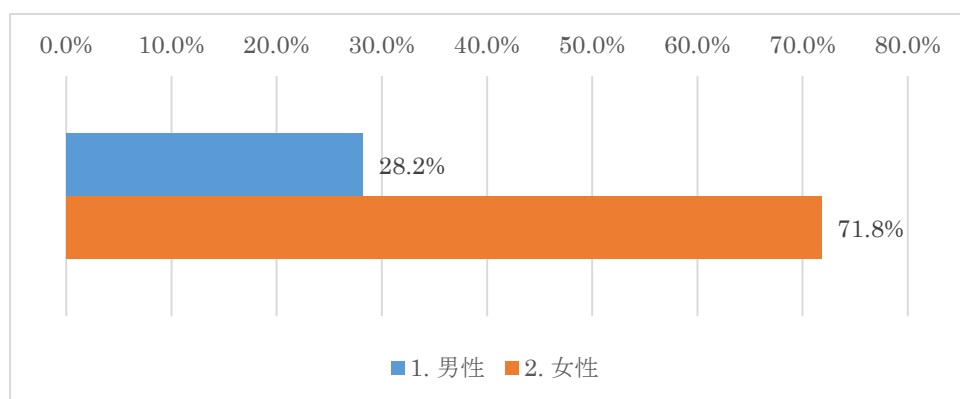
	人数
1. 夜間の開講(時間帯は午後 6 時以降)	3
2. 土・日・祝日の開講	4
3. サテライト教室	1
4. 奨学金制度	2
5. 通信教育制度	3
6.その他(具体的に:)	1
合 計	14

日本医科大学大学院進学に関するアンケート 集計結果（平成 27 年度）

アンケート対象：明治薬科大学薬学部第 6 学年（回答者 156 名）

1. 性別は？

	人数	割合
1. 男性	44	28.2%
2. 女性	112	71.8%
合 計	156	100.0%

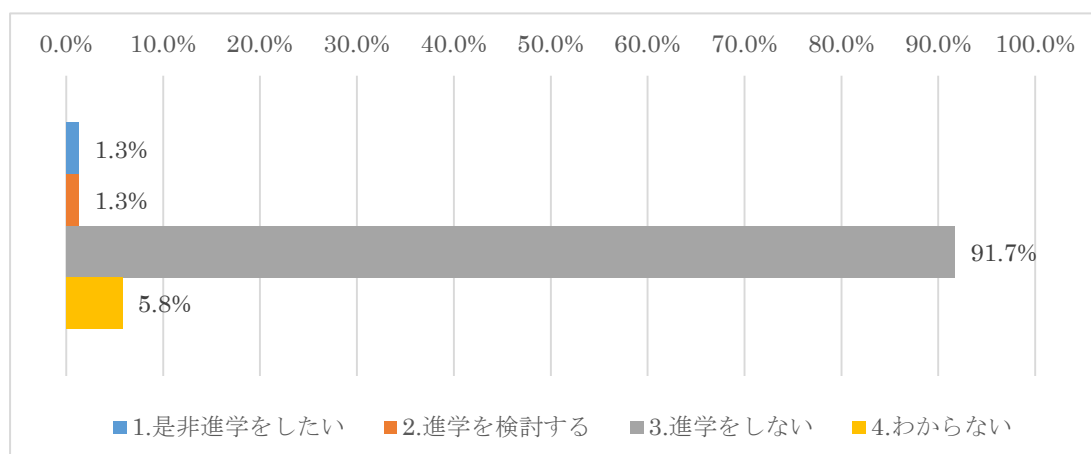


2. 本大学院に設置予定の大学院【博士課程】に進学を希望されますか。

1 つだけ選択をしてください。

	人数	割合
1.是非進学をしたい	2	1.3%
2.進学を検討する	2	1.3%
3.進学をしない	143	91.7%
4.わからない	9	5.8%
合 計	156	100.0%

(※小数点第 1 以下四捨五入)



3. 進学の時期はいつ頃を考えていますか。

- ・ 2 年後
- ・ 8 月
- ・ 就職後 2 ～ 3 年後

4. どのような分野への進学を希望されますか？

あてはまるものを全て選択してください。

	人数
1.分子解剖学	0
2.解剖学・神経生物学	0
3.感覚情報科学	0
4.生体統御科学	0
5.代謝・栄養学	0
6.分子遺伝医学	0
7.薬理学	2
8.解析人体病理学	0
9.統御機構診断病理学	0
10.微生物学・免疫学	0
11.衛生学公衆衛生学	0
12.法医学	0
13.医療管理学	0
14.細胞生物学	0
15.分子生物学	0
16.分子細胞構造学	0
17.生体機能制御学	1
18.遺伝子制御学	0
19.循環器内科学	1
20.神経内科学	0
21.腎臓内科学	1
22.アレルギー膠原病内科学	0
23.血液内科学	1
24.消化器内科学	1
25.内分泌糖尿病代謝内科学	0
26.呼吸器内科学	0

27.精神・行動医学	1
28.小児・思春期医学	1
29.臨床放射線医学	0
30.皮膚粘膜病態学	0
31.総合医療・健康科学	0
32.リハビリテーション学	0
33.消化器外科学	0
34.乳腺外科学	0
35.内分泌外科学	0
36.呼吸器外科学	0
37.心臓血管外科学	0
38.脳神経外科学	0
39.整形外科学	0
40.女性生殖発達病態学	0
41.頭頸部・感覚器科学	0
42.男性生殖器・泌尿器科学	0
43.眼科学	0
44.疼痛制御麻酔科学	0
45.救急医学	0
46.形成再建再生医学	0
47.昼夜開講制	0
48.未定	0
49.その他(具体的に:)	0
合 計	9

5. どのような学習環境があれば進学しやすいと考えますか。
あてはまるものを全て選択してください。

	人数
1. 夜間の開講(時間帯は午後 6 時以降)	5
2. 土・日・祝日の開講	2
3. サテライト教室	2
4. 奨学金制度	3
5. 通信教育制度	1
6.長期履修制度	2
7.その他(具体的に:)	0
合 計	15

平成 27 年度私立医科大学大学院初年度納付額・4 年間納付額総額一覧

【平成27年度】

私立医科大学大学院初年度納付額・4年間納付額総額一覧

〔初年度納付金額〕		単位 円	
順位	大 学 名	初年度納付額	
1	日 本 医 科 大 学	250,000	
	東 邦 大 学 医 学 部	250,000	据置き
3	兵 庫 医 科 大 学	350,000	据置き
4	獨 協 医 科 大 学	400,000	据置き
5	東 京 医 科 大 学	500,000	据置き
	東 京 慈 恵 会 医 科 大 学	500,000	据置き
	聖マリアンナ医科大学	500,000	据置き
	愛 知 医 科 大 学	500,000	据置き
9	昭 和 大 学 医 学 部	600,000	据置き
10	岩 手 医 科 大 学	625,000	据置き
11	順 天 堂 大 学 医 学 部	650,000	据置き
12	日 本 大 学 医 学 部	700,000	据置き
	関 西 医 科 大 学	700,000	据置き
	埼 玉 医 科 大 学	700,000	据置き
15	大 阪 医 科 大 学	730,000	据置き
16	北 里 大 学 医 学 部	750,000	据置き
17	川 崎 医 科 大 学	800,000	据置き
18	産 業 医 科 大 学	817,800	据置き
19	福 岡 大 学 医 学 部	820,000	値上げ
20	久 留 米 大 学 医 学 部	850,000	据置き
21	自 治 医 科 大 学	867,800	据置き
22	金 沢 医 科 大 学	900,000	据置き
23	東 京 女 子 医 科 大 学	950,000	据置き
	藤田保健衛生大学医学部	950,000	据置き
25	杏 林 大 学 医 学 部	1,050,000	据置き
	帝 京 大 学 医 学 部	1,050,000	据置き
27	近 畿 大 学 医 学 部	1,200,000	据置き
28	慶 應 義 塾 大 学 医 学 部	1,400,000	値上げ
29	東 海 大 学 医 学 部	1,446,000	据置き

【平成27年度】

私立医科大学大学院における学生納付金改定状況

〔4年間納付総額〕		単位 円	
順位	大 学 名	4年間納入額	
1	東 邦 大 学 医 学 部	850,000	据置き
2	日 本 医 科 大 学	1,000,000	据置き
3	兵 庫 医 科 大 学	1,100,000	据置き
4	獨 協 医 科 大 学	1,300,000	据置き
5	愛 知 医 科 大 学	1,400,000	据置き
6	東 京 医 科 大 学	1,700,000	据置き
	東 京 慈 恵 会 医 科 大 学	1,700,000	据置き
	聖マリアンナ医科大学	1,700,000	据置き
9	岩 手 医 科 大 学	1,900,000	据置き
10	昭 和 大 学 医 学 部	2,100,000	据置き
11	関 西 医 科 大 学	2,200,000	据置き
12	大 阪 医 科 大 学	2,230,000	据置き
13	順 天 堂 大 学 医 学 部	2,300,000	据置き
14	産 業 医 科 大 学	2,425,200	据置き
15	川 崎 医 科 大 学	2,600,000	据置き
16	自 治 医 科 大 学	2,625,200	据置き
17	久 留 米 大 学 医 学 部	2,650,000	据置き
18	日 本 大 学 医 学 部	2,800,000	据置き
	埼 玉 医 科 大 学	2,800,000	据置き
20	杏 林 大 学 医 学 部	2,850,000	据置き
21	福 岡 大 学 医 学 部	2,920,000	値上げ
22	金 沢 医 科 大 学	3,000,000	据置き
	北 里 大 学 医 学 部	3,000,000	据置き
24	藤田保健衛生大学医学部	3,350,000	据置き
25	東 京 女 子 医 科 大 学	3,500,000	据置き
26	帝 京 大 学 医 学 部	3,600,000	据置き
27	近 畿 大 学 医 学 部	4,200,000	据置き
28	東 海 大 学 医 学 部	4,884,000	据置き
29	慶 應 義 塾 大 学 医 学 部	5,000,000	値上げ

1. 平成27年度に改訂した大学……………2大学

慶應義塾大学医学部 初年度納付額 1,380,000円→1,400,000円
(+20,000円)

福岡大学医学部 初年度納付額 793, 500円→820,000円
(+26,500円)

東京都福祉保健局

救急医療対策協議会報告（平成 25 年 5 月）【抜粋】

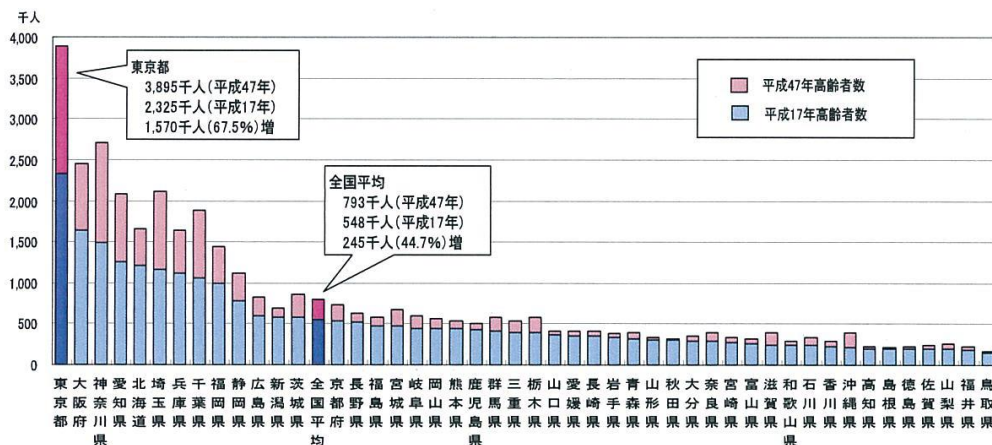
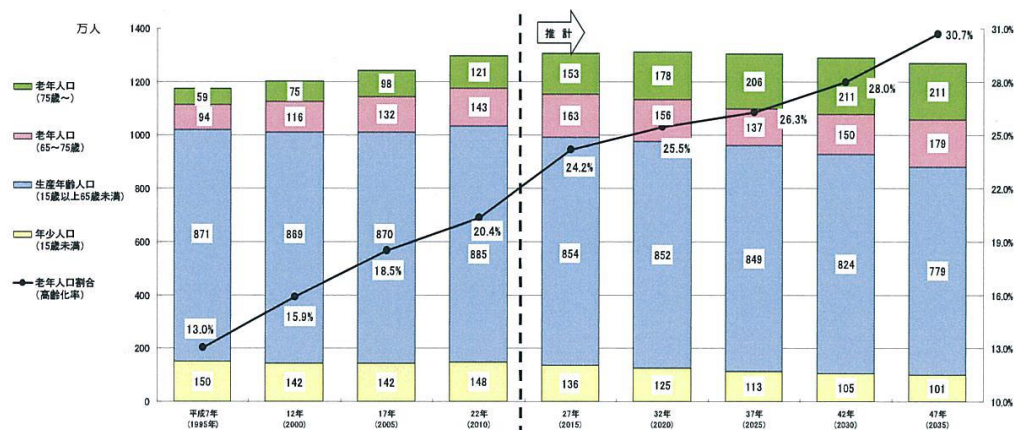
社会構造の変化に対応する救急医療体制のあり方について （救急医療対策協議会報告）

平成 25 年 5 月

第1 救急医療を取り巻く状況

1 人口構成の推移と将来予測

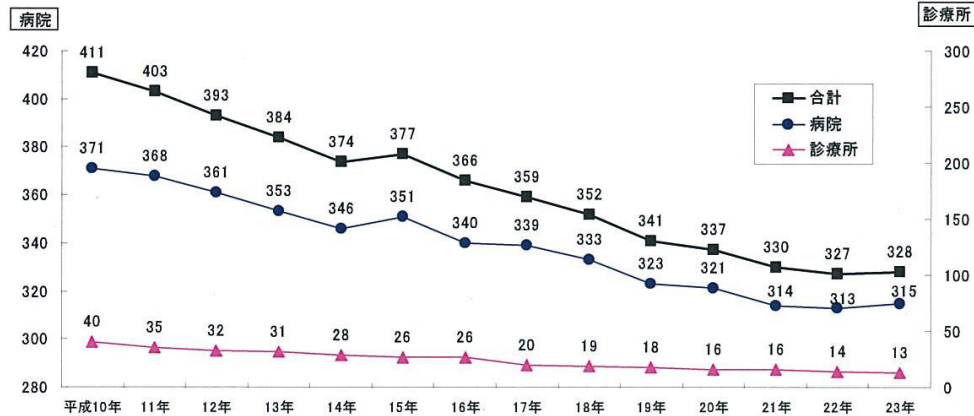
- 東京都の人口は、ほぼ横ばいか微増傾向が今後も当分の間続くが、平成32年頃をピークに減少に転じると推計されている。
- しかし人口構成で見ると、高齢者の割合（高齢化率）は、平成32年に25%を超え、その後推計のある平成47年まで一貫して増え続けていく見通しである。特に、全国的にみても東京都の高齢者数は、平成17年の232万5千人から平成47年には389万5千人となり、増加数は全国1位である。
- また、平成27年までは前期高齢者数が後期高齢者数を上回るが、平成32年には後期高齢者数が前期高齢者数を上回ることが見込まれている。



出典：「日本の都道府県別将来推計人口（平成19年5月推計）」（国立社会保障・人口問題研究所）

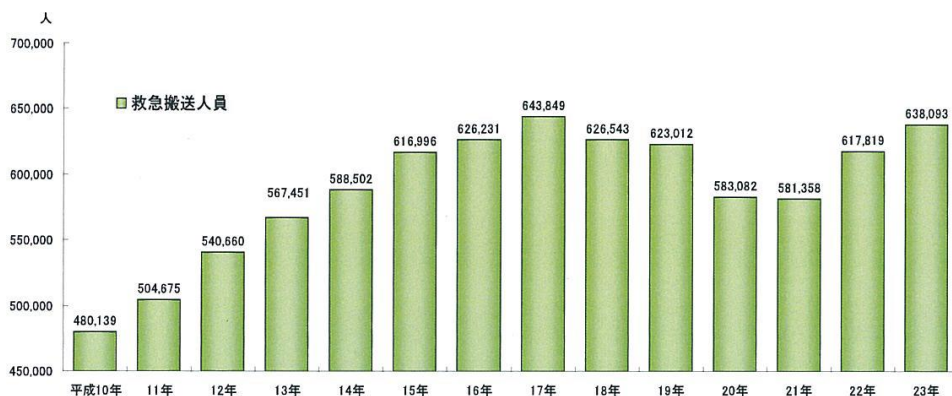
2 救急告示医療機関数の推移

- 救急医療機関数は、救急告示医療機関の申出を撤回する医療機関が増えており、平成 10 年と比較すると約 2 割減少した。
- 申出の撤回理由として、約 6 割の施設が「体制確保が困難」と回答している。



3 救急搬送患者数の推移

- 都内全体の救急搬送患者数については、平成 10 年以降増加の一途をたどってきたが、平成 17 年をピークに平成 21 年にかけて減少傾向となった。
- しかし、平成 22 年に再び増加に転じ、平成 23 年については、平成 17 年について、過去二番目に多い搬送人員となった。
- 全国の救急搬送患者数についても、都と類似の傾向で推移している。



4 高齢者の救急搬送患者数の推移

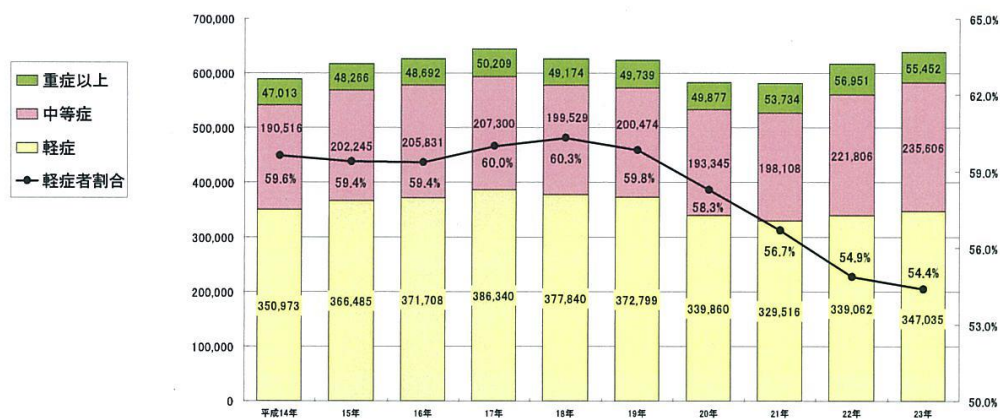
- 高齢者の救急搬送患者数についても、平成 10 年以降増加の一途をたどっており、平成 17 年から平成 21 年にかけてはほぼ横ばいで推移したが、平成 22 年に大幅に増加し、平成 23 年も前年を上回る実績となっている。

- 全体の救急搬送患者に占める高齢者の割合は、平成 23 年は 45%を超えているが、高齢化の進展により、今後一層、高齢者の救急搬送人員が増えることが予想される。



5 救急搬送患者に占める軽症者の割合の推移

- 初診時傷病程度別でみると、救急搬送患者数に占める軽症者の割合は、過去 10 年間、平成 19 年まで約 60%前後の水準で推移し続けていたが、平成 20 年以降、減少傾向にあり、平成 23 年は 54.4%であった。
- この理由としては、都民への救急車の適正利用の促進に向けた普及啓発活動の効果等が考えられるが、依然として救急搬送患者の半数以上が軽症者となっている。
- また、平成 14 年を基準とすると、重症及び中等症の患者は増加傾向にある。



※「初診時傷病程度」：医療機関に搬送した傷病者に対する医師の所見をいう。

軽症：軽易で入院を要しないもの

中等症：生命の危険はないが入院を要するもの

重症：生命の危険が強いと認められたもの

重篤：生命の危険が切迫しているもの

7 東京都の特性

- 東京は 1,300 万人という膨大な人口を擁している。また、外国人や路上生活者なども含め、多様な人たちが居住している。さらに、通勤や通学等により、大勢の人々が出入りし、昼間人口はおおよそ 1,500 万人と算出されている。こうした大都市東京においては、当然のことながら、全国一の膨大な数の、また、多様な救急患者が発生している。
- 数多くの医療機関が集中する東京では、救急の場合でも患者が高度で専門的な医療を求める、いわゆる大病院志向・専門医志向がより強くなると考えられる。
- 救急告示医療機関数は全国 1 位であるが、人口 10 万人当たりの救急告示医療機関数は、2.5 で全国 41 位となっている。
- 救急告示医療機関の設置主体では、民間医療機関が全国に比べ 19.9 ポイント高く、他道府県に比べ国公立・公的の医療機関の占める割合が少ない。
- そのため、民間医療機関への救急搬送件数の割合も全国に比べ 20.7 ポイント高く、都内の救急医療において民間医療機関の果たす役割が大きいことが伺える。

設置主体別 救急告示医療機関数

平成22年4月1日現在

区分	国公立・公的	民間医療機関	民間医療機関の割合
東京都	30	297	90.8%
全国	1,249	3,043	70.9%

設置主体別 救急搬送件数

平成21年実績

区分	国公立・公的	民間医療機関	民間医療機関の割合
東京都	138,329	423,925	75.4%
全国	1,869,759	2,262,066	54.7%